

平成18年度「商品先物取引に関する実態調査」報告書

2007年9月

農林水産省総合食料局商品取引監理官

経済産業省商務情報政策局商務課

=目次=

I.調査の概要	1
II.委託者調査の結果	5
II-1.回答者の属性	6
II-2.商品先物取引を始めた動機	9
II-3.商品先物取引をしている商品取引員数	10
II-4.商品先物取引の経験期間（累積）	12
II-5.商品先物取引を行なった商品	13
II-6.商品先物取引以外に取引経験のある金融商品	15
II-7.現在の商品取引員と取引をしているきっかけ	16
II-8.現在の商品取引員と取引をしている理由	17
II-9.「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ	20
II-10.商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明	22
II-11.商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解	24
II-12.委託手数料について	27
II-13.商品取引員に対する不満	29
II-14.注文方法について	32
II-15.商品先物取引の判断材料	37
II-16.夜間取引の必要性	39
II-17.ストップ高、ストップ安による取引停止経験	41
II-18.板寄せ方式とザラバ方式	43
II-19.日本商品先物取引協会について	45
III.商品取引員調査の結果	49
III-1.取引口座数	50
III-2.一般個人の損益状況	51
III-3.登録外務員数	52

本報告書を読む際の注意事項

1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するのかを示す比率算出の基数となります。
2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。
3. 結果数値（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

I .調査の概要

1.調査の目的

商品先物取引の受託業務の現状等を把握し、今後の商品先物取引に関する制度立案や運営を行う上での基礎資料として活用する。

2.調査項目

①委託者アンケート調査

- ・ 回答者の属性（性別、年齢、職業、年収、投資割合）
- ・ 商品先物取引を始めた動機
- ・ 商品先物取引の経験（取引のある商品取引員数、経験期間、取引商品）
- ・ 商品先物取引以外に取引経験のある金融商品
- ・ 現在の商品取引員と取引をしているきっかけ及び理由
- ・ 商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解（「商品先物取引・委託のガイド」、商品取引員からの説明等）
- ・ 委託手数料について
- ・ 商品取引員に対する不満
- ・ 商品先物取引について（注文方法、判断材料、夜間取引の必要性、値幅制限による取引停止経験等）
- ・ 日本商品先物取引協会について

②商品取引員アンケート調査

- ・ 取引口座数
- ・ 一般個人の損益状況
- ・ 登録外務員数

3.調査対象

①委託者アンケート調査

- ・ 調査対象数 6,636 人
- ・ 抽出方法 無作為抽出による標本調査

②商品取引員アンケート調査

- ・ 調査対象数 78 社
- ・ 抽出方法 全数調査

4.調査時期

①委託者アンケート調査

平成 19 年 1 月 30 日～平成 19 年 2 月 10 日

②商品取引員アンケート調査

平成 19 年 1 月 15 日～平成 19 年 1 月 26 日

5.調査方法

アンケート調査票を用いた郵送調査

6.調査実施委託機関

有限会社リサーチワークス

7.回収結果

①委託者アンケート調査

2,439 名（有効回答のみ。有効回答率 36.8%）

②商品取引員アンケート調査

77 社 （有効回答のみ。有効回答率 98.7%）

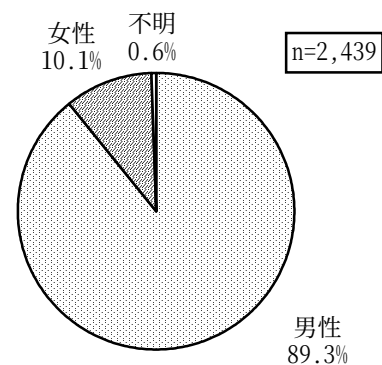
II.委託者調査の結果

II-1.回答者の属性

(1)性別

性別は、「男性」が89.3%、「女性」が10.1%となっている。（図表1）

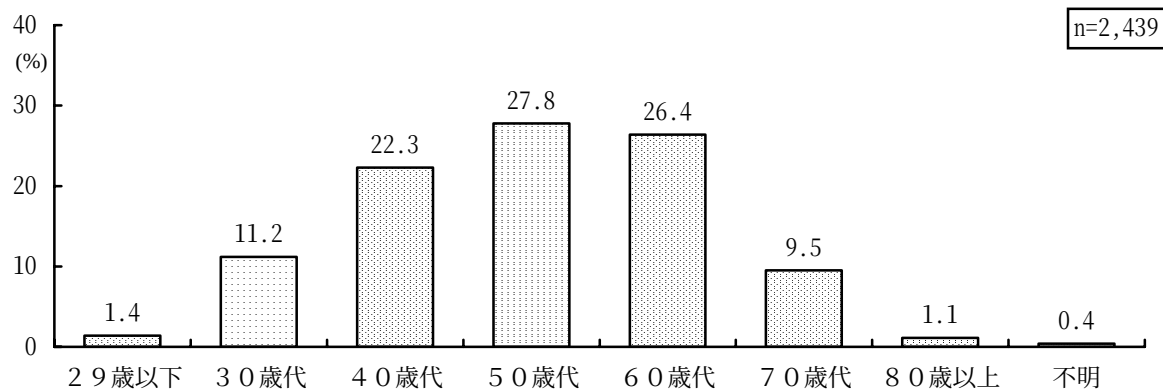
図表 1：回答者の性別



(2)年齢

年齢は、「50 歳代」が27.8%と最も多く、次いで、「60 歳代」（26.4%）、「40 歳代」（22.3%）となっており、「40 歳～69 歳」で全体の約 3/4 を占めている。（図表2）

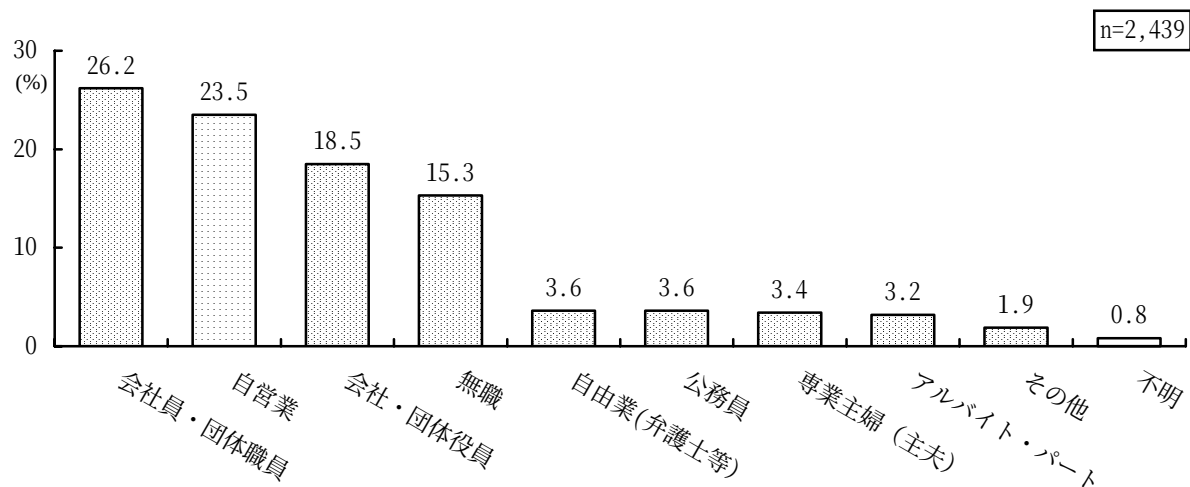
図表 2：年齢



(3)職業

職業は「会社員・団体職員」が26.2%と最も多くなっている。これに、「会社・団体役員」（18.5%）、「公務員」（3.6%）を加えると約 5 割となり、給与所得者の割合が多くなっている。2 番目に多いのは「自営業」の 23.5%で、これに「自由業（弁護士等）」（3.6%）を加えると約 3 割になる。（図表3）

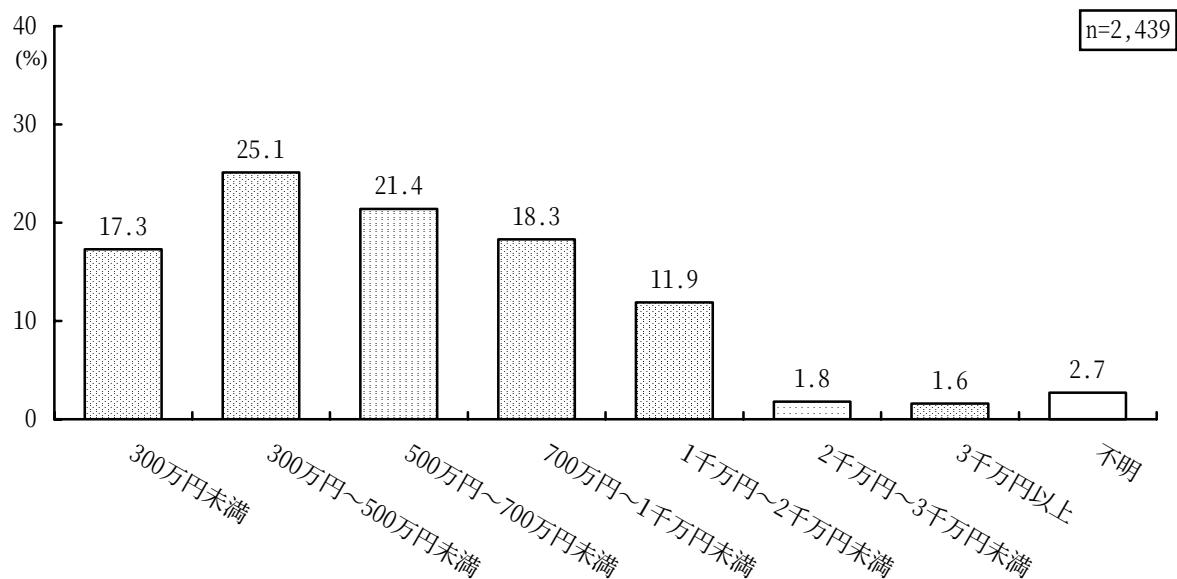
図表 3：職業



(4)年収

年収は「300万～500万円未満」が25.1%と最も多くなっている。次いで、「500万～700万円未満」(21.4%)が多く、「300万～700万円未満」で全体の約5割を占めている。これに、「300万円未満」(17.3%)を加えると、全体の約6割が「700万円未満」となっている。(図表4)

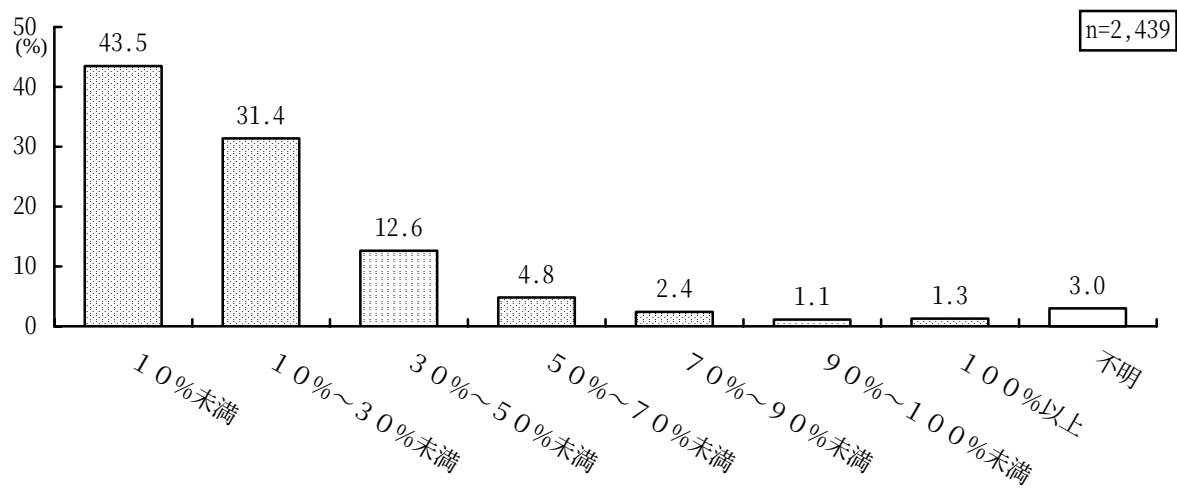
図表 4：年収



(5)投資割合

保有資産額に対する商品先物取引への投資割合は、「10%未満」が43.5%と最も多くなっている。次いで、「10%～30%未満」(31.4%)が多く、「30%未満」で全体の約 3/4 を占めている。(図表 5)

図表 5：投資割合

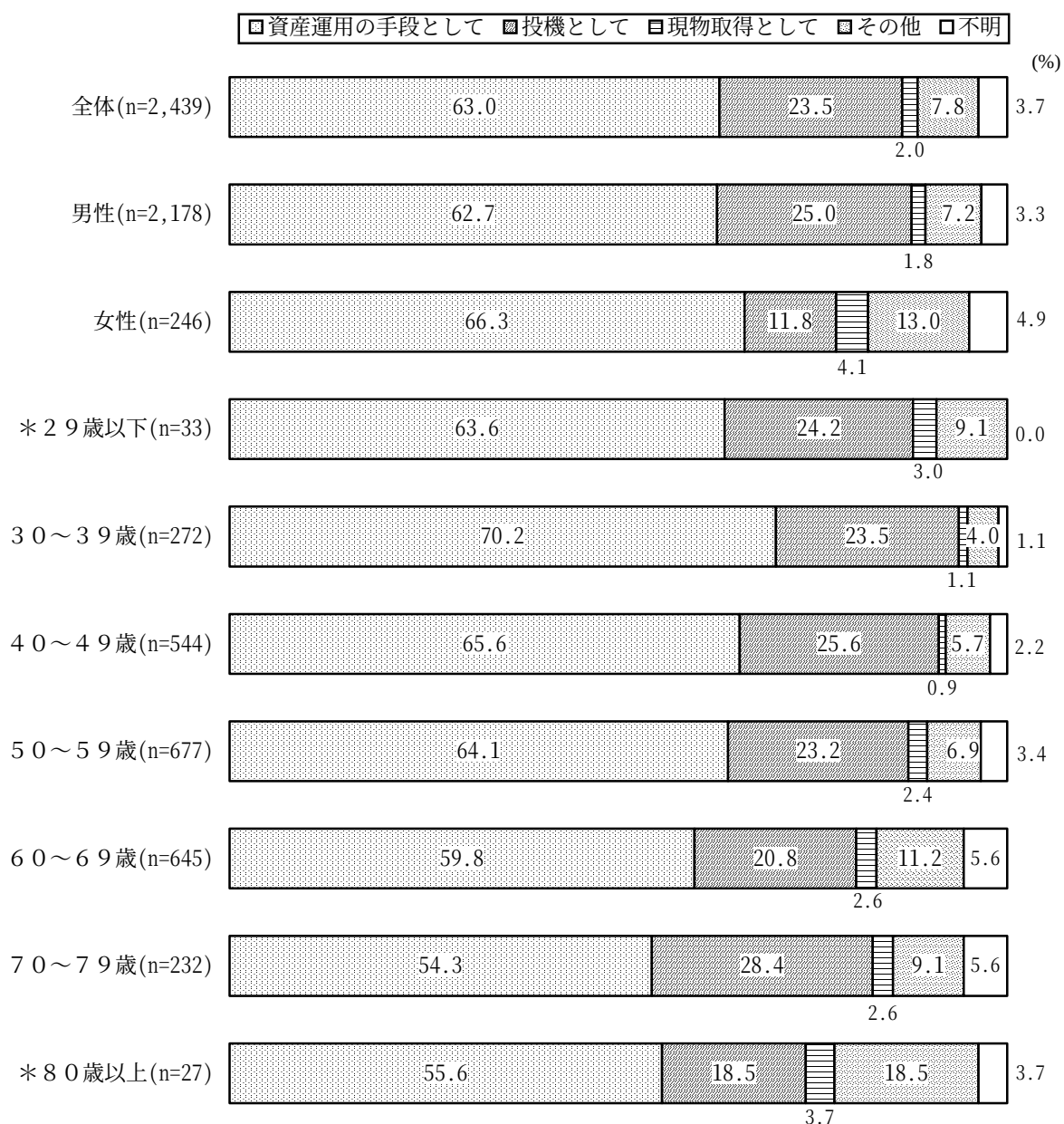


II-2.商品先物取引を始めた動機

商品先物取引を始めた動機については、「資産運用の手段として」が63.0%、「投機として」が23.5%となっており、資産運用としての意識が強いことがわかる。また、「現物取得」は2.0%にとどまっている。

性別、年齢別にみても、いずれも「資産運用の手段として」が過半数となっている。(図表6)

図表 6：商品先物取引を始めた動機（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-3.商品先物取引の経験

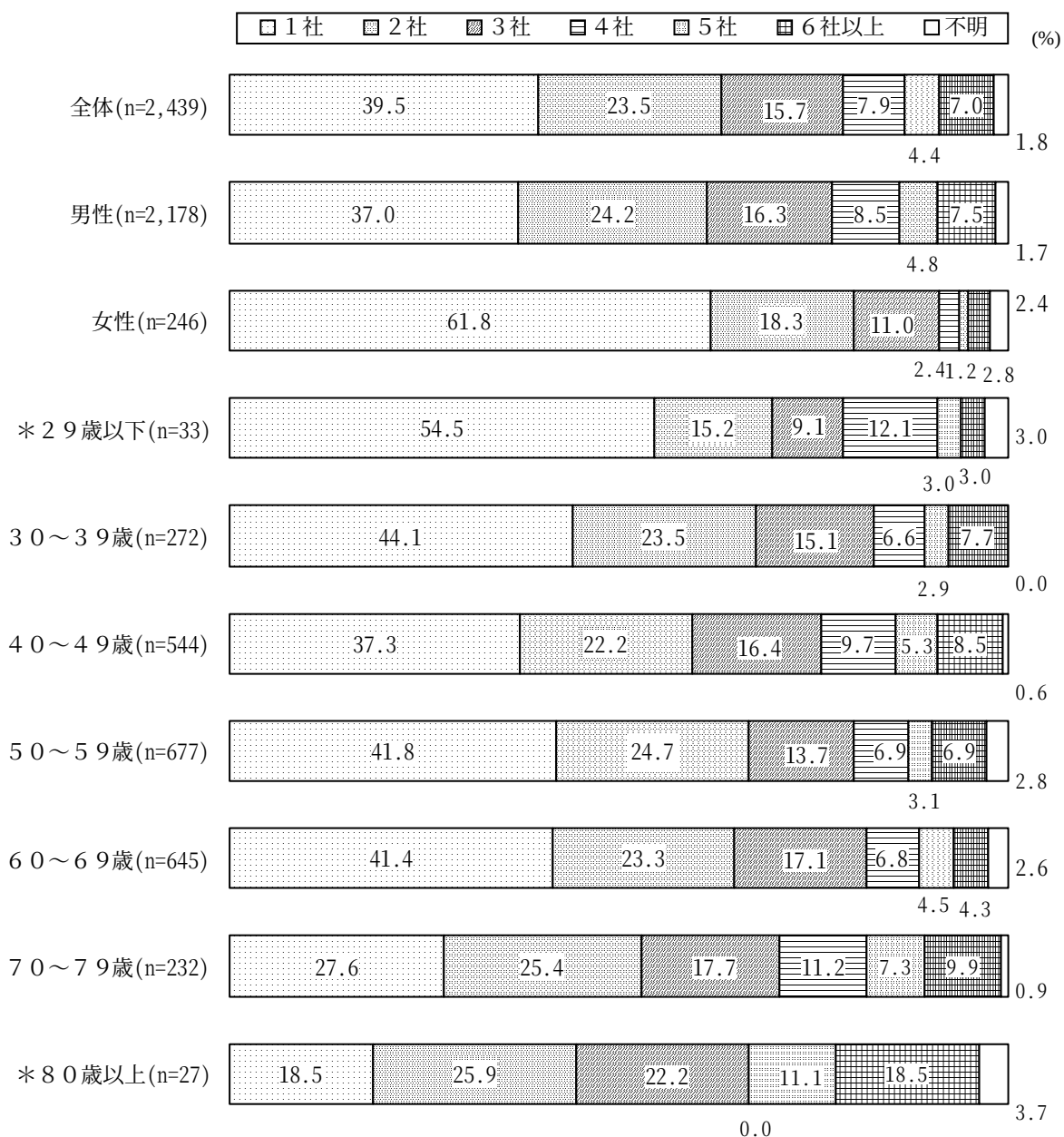
(1)これまでに取引した商品取引員数

これまでに取引した経験のある商品取引員数については、「1社」が39.5%、「2社」が23.5%となっており、約6割が「2社以下」となっている。

性別でみると、「女性」で「1社」が61.8%と多くなっている。

年齢別でみると、「30歳代から60歳代」で「1社」がいずれも4割前後となっているが、「70歳代以上」では「2社以上」がやや多くなっている。(図表7)

図表 7：これまでに取引した商品取引員数（全体、性別、年齢別）



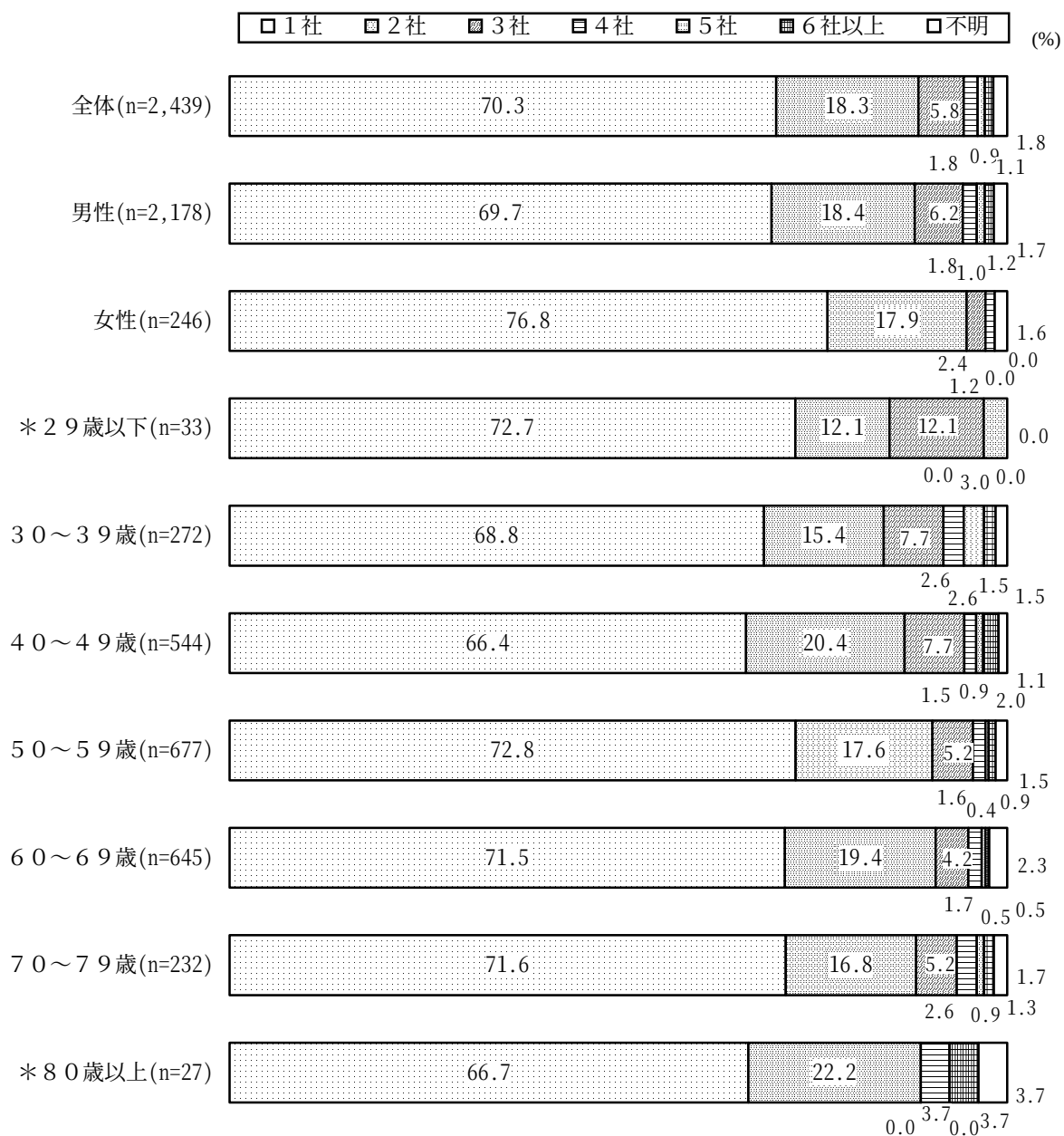
注) 図表中*印のついた年齢層 (29歳以下、80歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

(2)現在取引している商品取引員数

現在取引している商品取引員数については、「1社」が70.3%、「2社」が18.3%となっており、約9割が「2社以下」となっている。

性別、年齢別にみても、いずれも「1社」が多くなっており、大きな違いはみられない。(図表8)

図表 8：現在取引している商品取引員数（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

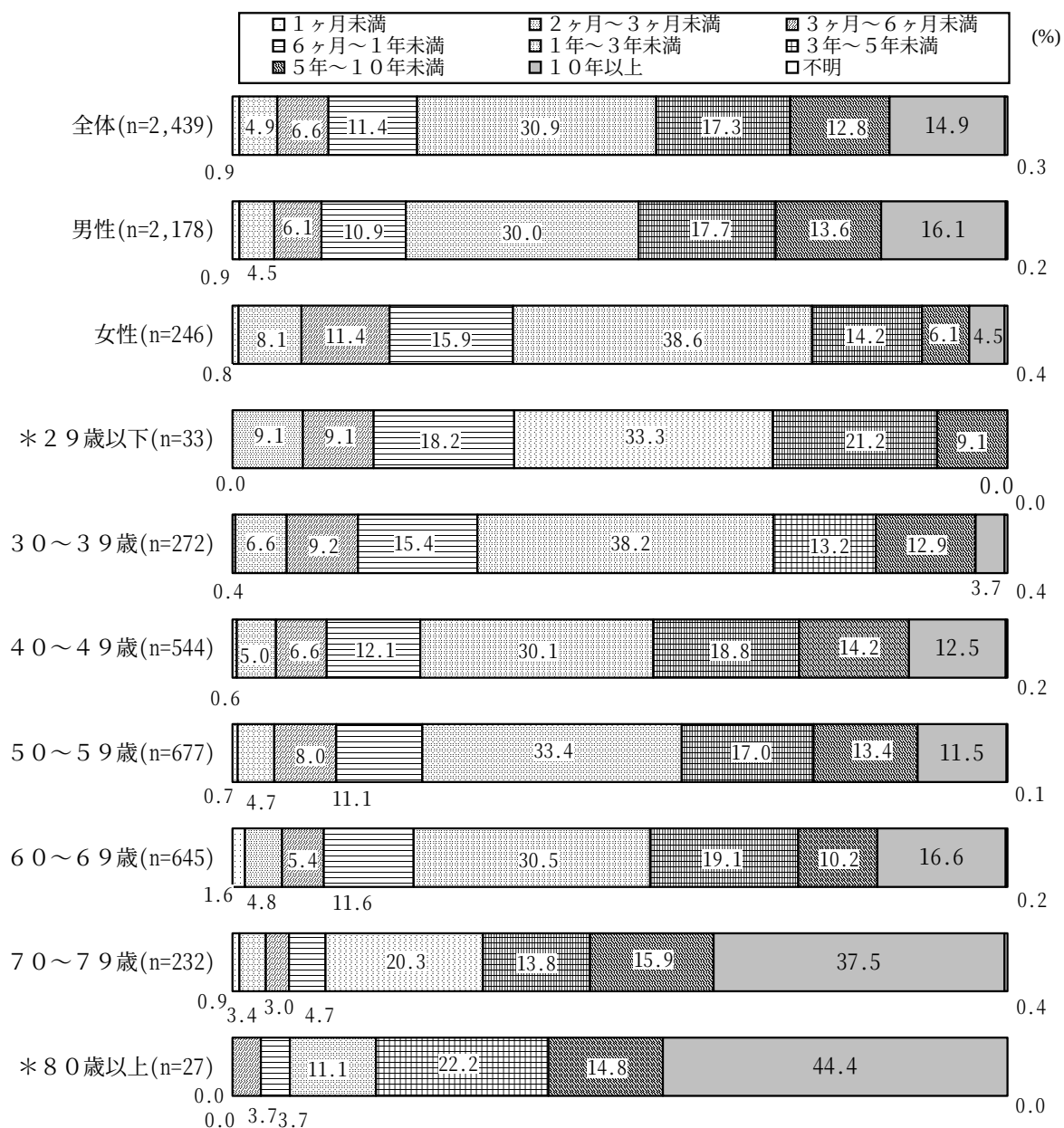
II-4.商品先物取引の経験期間（累積）

商品先物取引の経験期間（累積）については、「1～3 年未満」が 30.9%と最も多くなっており、これに「1 年未満」の 23.8%を加えると、過半数が「3 年未満」となっている。一方で、「3 年以上」は 45.0%となっており、このうち「10 年以上」が 14.9%を占めている。

性別でみると、「女性」で「1 年未満」が 36.2%とやや多くなっている。

年齢別でみると、「70～79 歳」で「10 年以上」が 37.5%と多くなっており、年齢が高いほど経験期間が長くなる傾向がみられる。（図表 9）

図表 9：商品先物取引の経験期間（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-5.商品先物取引を行なった商品

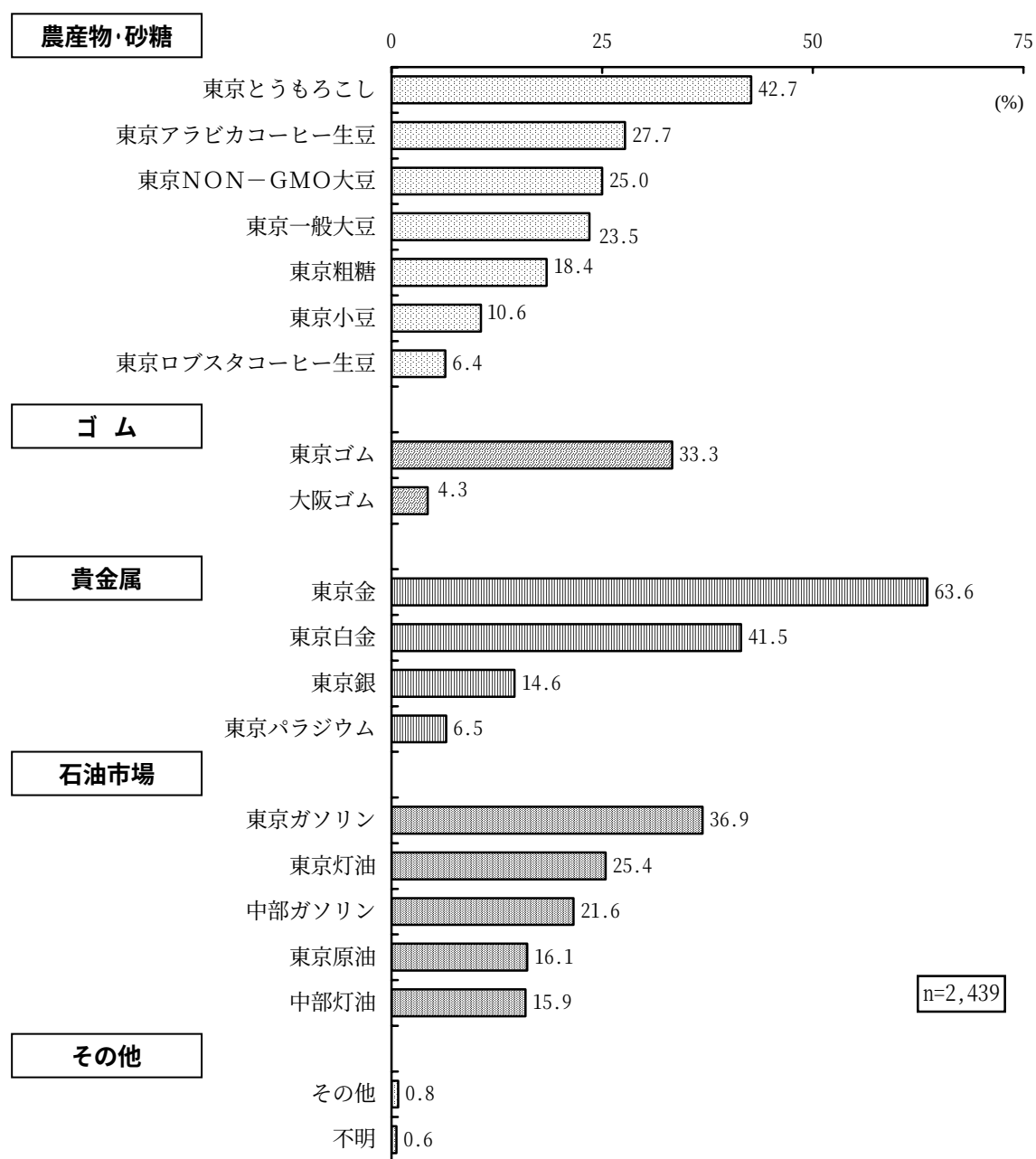
「農産物」では「東京とうもろこし」が42.7%と多くなっている。

「ゴム」では「東京ゴム」が33.3%と多くなっている。

「貴金属」では「東京金」が63.6%と、回答者の過半数が取引を行なっている。また、「東京白金」も41.5%と多く、全体で3番目に取引が多い。

「石油市場」では「東京ガソリン」が36.9%と多くなっている他、調査項目の全てで15%を超えており、比較的取引が多くなっている。(図表10)

図表 10：商品先物取引を行った商品（全体）【複数回答】



性別、年齢別にみても、大きな違いはみられない。(図表11)

図表 11：商品先物取引を行った商品（性別、年齢別）【複数回答】

（上段実数／下段％）

	農産物・砂糖							ゴム	
	東京とうもろこし	東京アラビカコーヒー生豆	東京NON-GMO大豆	東京一般大豆	東京粗糖	東京小豆	東京ロブスタコーヒー生豆	東京ゴム	大阪ゴム
全体 (n=2,439)	1,042 42.7	675 27.7	610 25.0	573 23.5	449 18.4	258 10.6	157 6.4	812 33.3	106 4.3
男性 (n=2,178)	964 44.3	610 28.0	552 25.3	529 24.3	422 19.4	245 11.2	149 6.8	745 34.2	99 4.5
女性 (n=246)	76 30.9	61 24.8	57 23.2	41 16.7	26 10.6	12 4.9	7 2.8	64 26.0	7 2.8
*29歳以下 (n=33)	11 33.3	11 33.3	12 36.4	7 21.2	6 18.2	4 12.1	2 6.1	13 39.4	2 6.1
30歳代 (n=272)	128 47.1	81 29.8	72 26.5	71 26.1	55 20.2	41 15.1	28 10.3	106 39.0	16 5.9
40歳代 (n=544)	254 46.7	172 31.6	136 25.0	152 27.9	135 24.8	79 14.5	53 9.7	203 37.3	28 5.1
50歳代 (n=677)	270 39.9	172 25.4	150 22.2	138 20.4	102 15.1	47 6.9	34 5.0	218 32.2	27 4.0
60歳代 (n=645)	269 41.7	163 25.3	188 29.1	140 21.7	97 15.0	45 7.0	28 4.3	180 27.9	27 4.2
70歳代 (n=232)	102 44.0	68 29.3	50 21.6	57 24.6	49 21.1	37 15.9	10 4.3	81 34.9	6 2.6
*80歳以上 (n=27)	7 25.9	6 22.2	2 7.4	7 25.9	5 18.5	4 14.8	1 3.7	10 37.0	0 0.0

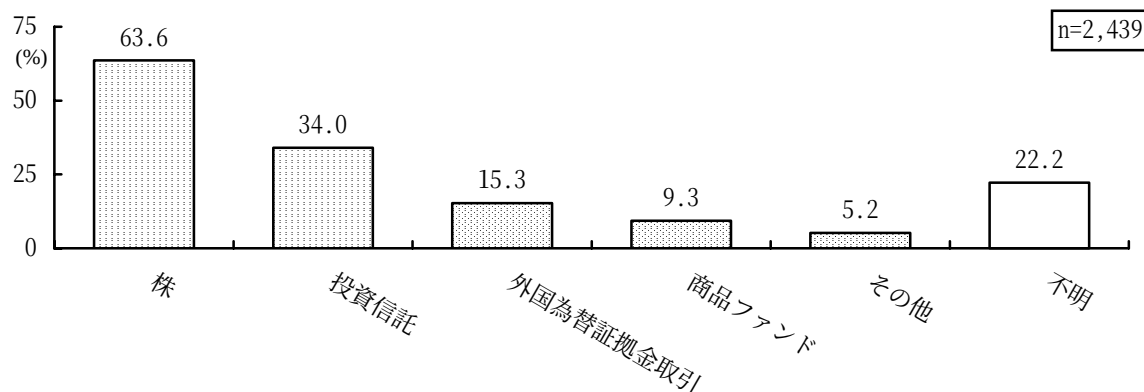
	貴金属				石油市場					その他
	東京金	東京白金	東京銀	東京パラジウム	東京ガソリン	東京灯油	中部ガソリン	東京原油	中部灯油	
全体 (n=2,439)	1,552 63.6	1,011 41.5	356 14.6	158 6.5	900 36.9	620 25.4	526 21.6	393 16.1	387 15.9	19 0.8
男性 (n=2,178)	1,408 64.6	923 42.4	332 15.2	152 7.0	831 38.2	583 26.8	453 20.8	373 17.1	331 15.2	18 0.8
女性 (n=246)	138 56.1	84 34.1	22 8.9	5 2.0	65 26.4	35 14.2	71 28.9	18 7.3	55 22.4	1 0.4
*29歳以下 (n=33)	21 63.6	13 39.4	7 21.2	0 0.0	13 39.4	8 24.2	8 24.2	6 18.2	8 24.2	0 0.0
30歳代 (n=272)	174 64.0	123 45.2	50 18.4	14 5.1	123 45.2	87 32.0	68 25.0	64 23.5	49 18.0	4 1.5
40歳代 (n=544)	352 64.7	266 48.9	100 18.4	40 7.4	246 45.2	184 33.8	134 24.6	120 22.1	101 18.6	6 1.1
50歳代 (n=677)	421 62.2	281 41.5	84 12.4	46 6.8	241 35.6	156 23.0	154 22.7	98 14.5	106 15.7	2 0.3
60歳代 (n=645)	411 63.7	224 34.7	73 11.3	36 5.6	215 33.3	136 21.1	128 19.8	68 10.5	99 15.3	4 0.6
70歳代 (n=232)	149 64.2	90 38.8	38 16.4	20 8.6	54 23.3	41 17.7	33 14.2	31 13.4	23 9.9	2 0.9
*80歳以上 (n=27)	20 74.1	13 48.1	3 11.1	2 7.4	6 22.2	7 25.9	1 3.7	5 18.5	1 3.7	1 3.7

注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-6.商品先物取引以外に取引経験のある金融商品

商品先物取引以外に取引経験のある金融商品については、「株」が63.6%と最も多くなっている。次いで、「投資信託」(34.0%)、「外国為替証拠金取引」(15.3%)となっている。(図表12)

図表 12：商品先物取引以外に取引経験のある金融商品（全体）【複数回答】



性別でみると、「女性」で「投資信託」が43.1%とやや多くなっている。

年齢別でみると、いずれも「株」が最も多いが、年齢が上がるほどその割合が高まる傾向にある。また、「30～49歳」で「外国為替証拠金取引」が2割前後とやや多くなっている。なお、「50歳以下」では「不明」が多くなっている。(図表13)

図表 13：商品先物取引以外に取引経験のある金融商品（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数/下段%)

	株	投資信託	外国為替 証拠金取引	商品 ファンド	その他	不明
全体 (n=2,439)	1,552 63.6	829 34.0	373 15.3	227 9.3	127 5.2	542 22.2
男性 (n=2,178)	1,411 64.8	719 33.0	331 15.2	204 9.4	109 5.0	486 22.3
女性 (n=246)	134 54.5	106 43.1	39 15.9	22 8.9	18 7.3	49 19.9
*29歳以下 (n=33)	17 51.5	8 24.2	5 15.2	3 9.1	1 3.0	14 42.4
30歳代 (n=272)	136 50.0	72 26.5	65 23.9	26 9.6	16 5.9	97 35.7
40歳代 (n=544)	321 59.0	165 30.3	102 18.8	61 11.2	44 8.1	145 26.7
50歳代 (n=677)	419 61.9	231 34.1	85 12.6	71 10.5	29 4.3	145 21.4
60歳代 (n=645)	458 71.0	250 38.8	82 12.7	48 7.4	28 4.3	96 14.9
70歳代 (n=232)	175 75.4	93 40.1	31 13.4	18 7.8	9 3.9	36 15.5
*80歳以上 (n=27)	23 85.2	8 29.6	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4 14.8

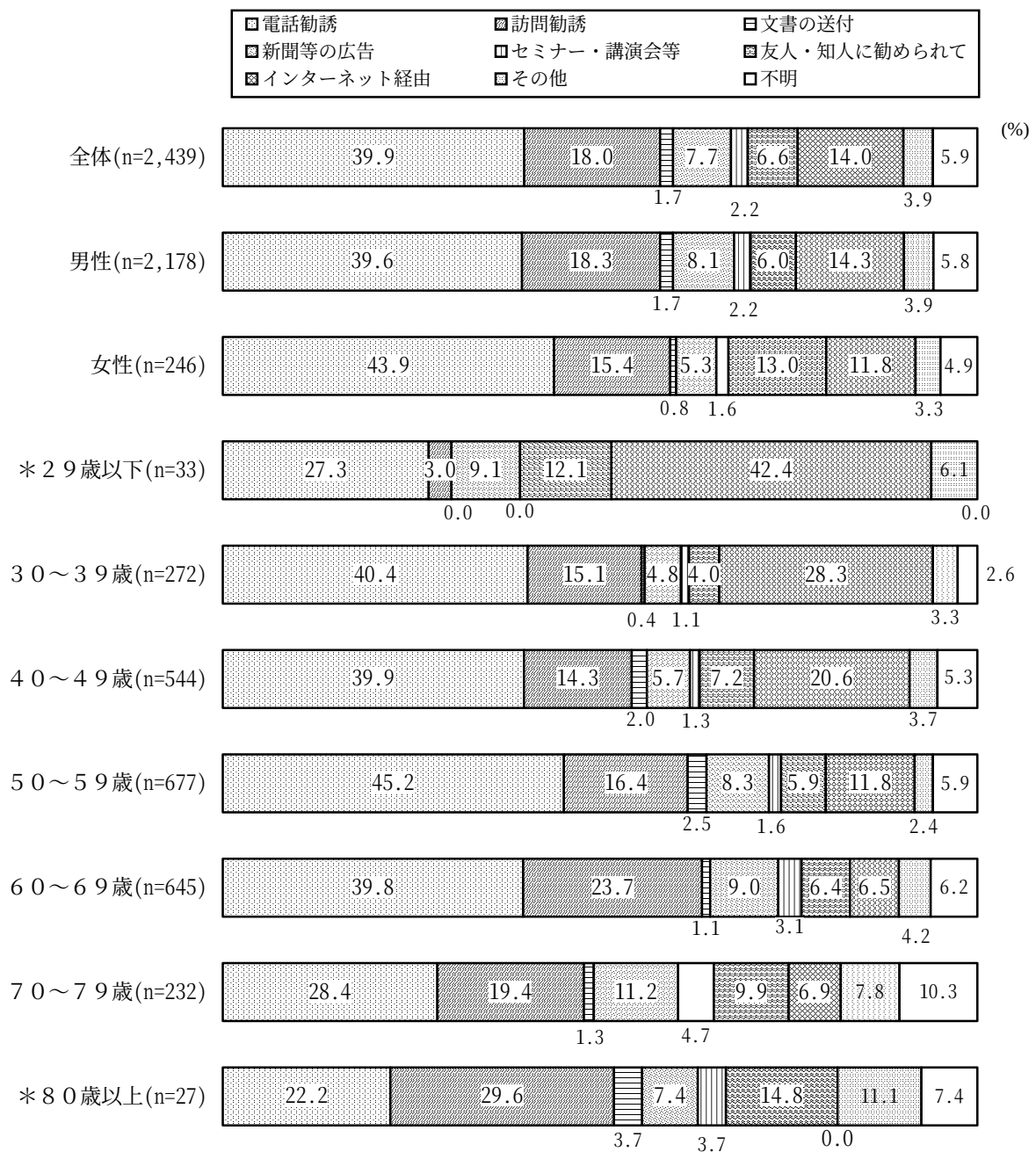
注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-7.現在の商品取引員と取引をしているきっかけ

現在の商品取引員と取引をしているきっかけについては、「電話勧誘を受けて」が39.9%、「訪問勧誘を受けて」が18.0%となっており、約6割が商品取引員からの勧誘がきっかけになっている。

性別、年齢別でみると、商品取引員からの勧誘が多いという傾向は同じであるが、「40歳以下」で「インターネットを経由して」が多くなっている。（図表14）

図表 14：現在の商品取引員と取引をしているきっかけ（全体、性別、年齢別）

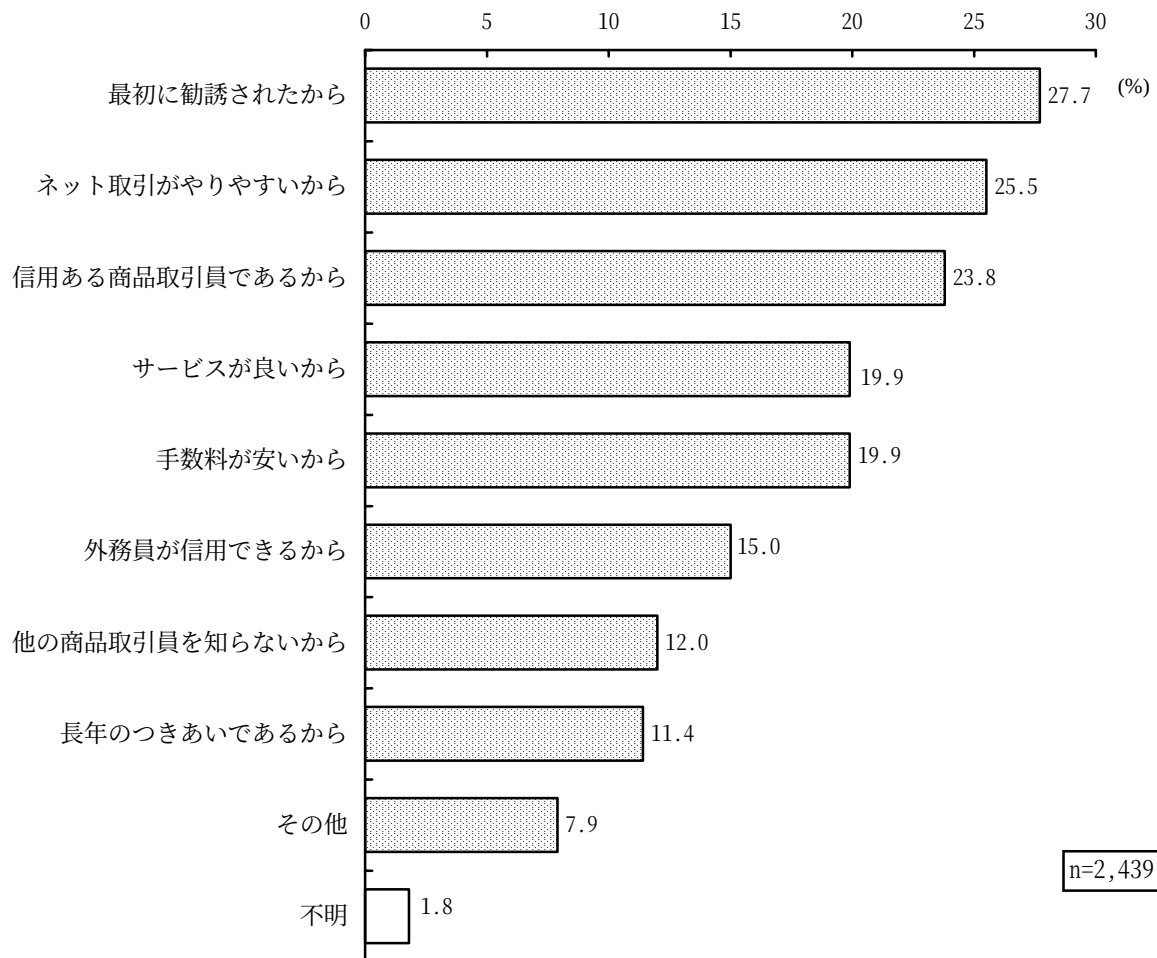


注) 図表中*印のついた年齢層 (29歳以下、80歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-8.現在の商品取引員と取引をしている理由

現在の商品取引員と取引をしている理由については、「最初に勧誘されたから」が27.7%と最も多くなっており、次いで、「ネット取引がやりやすいから」（25.5%）、「信用ある商品取引員であるから」（23.8%）となっている。（図表15）

図表 15：現在の商品取引員と取引をしている理由（全体）



性別でみると、「女性」で「最初に勧誘されたから」（37.4%）と「他の商品取引員を知らないから」（15.4%）の合計が約5割となっている。

年齢別でみると、「40歳代以下」で「ネット取引がやりやすいから」が最も多くなっている。
（図表 16）

図表 16：現在の商品取引員と取引をしている理由（性別、年齢別）【複数回答】

（上段実数／下段％）

	最初に勧誘されたから	ネット取引がやりやすいから	信用ある商品取引員であるから	サービスが良いから	手数料が安いから	外務員が信用できるから	他の商品取引員を知らないから	長年のつきあいであるから	その他	不明
全体 (n=2,439)	675 27.7	622 25.5	581 23.8	486 19.9	486 19.9	367 15.0	293 12.0	279 11.4	193 7.9	43 1.8
男性 (n=2,178)	583 26.8	581 26.7	530 24.3	439 20.2	454 20.8	327 15.0	254 11.7	258 11.8	167 7.7	30 1.4
女性 (n=246)	92 37.4	40 16.3	48 19.5	44 17.9	31 12.6	38 15.4	38 15.4	17 6.9	25 10.2	9 3.7
＊29歳以下 (n=33)	9 27.3	17 51.5	3 9.1	8 24.2	14 42.4	2 6.1	3 9.1	0 0.0	2 6.1	0 0.0
30歳代 (n=272)	73 26.8	106 39.0	53 19.5	57 21.0	78 28.7	31 11.4	40 14.7	17 6.3	20 7.4	2 0.7
40歳代 (n=544)	134 24.6	194 35.7	114 21.0	100 18.4	144 26.5	67 12.3	62 11.4	49 9.0	48 8.8	3 0.6
50歳代 (n=677)	202 29.8	170 25.1	162 23.9	125 18.5	123 18.2	101 14.9	89 13.1	76 11.2	48 7.1	12 1.8
60歳代 (n=645)	206 31.9	99 15.3	167 25.9	132 20.5	90 14.0	105 16.3	79 12.2	82 12.7	56 8.7	14 2.2
70歳代 (n=232)	44 19.0	35 15.1	74 31.9	57 24.6	34 14.7	54 23.3	17 7.3	47 20.3	14 6.0	7 3.0
＊80歳以上 (n=27)	6 22.2	0 0.0	8 29.6	6 22.2	3 11.1	7 25.9	2 7.4	7 25.9	4 14.8	1 3.7

注) 図表中＊印のついた年齢層（29歳以下、80歳以上）はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で「最初に勧誘されたから」が約4割と多くなっている。また、「インターネットを経由して」では、「ネット取引がやりやすいから」(76.9%)、「手数料が安いから」(58.5%)が多くなっている。それ以外では、「信用ある商品取引員であるから」が最も多くなっている。(図表17)

図表 17：現在の商品取引員と取引をしている理由（取引のきっかけ別）【複数回答】

(上段実数／下段%)

	最初に勧誘されたから	ネット取引がやりやすいから	信用ある商品取引員であるから	サービスが良いから	手数料が安いから	外務員が信用できるから	他の商品取引員を知らないから	長年のつきあいであるから	その他	不明
全体 (n=2,439)	675 27.7	622 25.5	581 23.8	486 19.9	486 19.9	367 15.0	293 12.0	279 11.4	193 7.9	43 1.8
電話勧誘を受けて (n=973)	410 42.1	119 12.2	197 20.2	157 16.1	85 8.7	148 15.2	160 16.4	112 11.5	74 7.6	16 1.6
訪問勧誘を受けて (n=438)	177 40.4	42 9.6	95 21.7	74 16.9	26 5.9	76 17.4	55 12.6	53 12.1	41 9.4	6 1.4
＊文書の送付を受けて (n=41)	10 24.4	8 19.5	12 29.3	9 22.0	8 19.5	7 17.1	5 12.2	5 12.2	4 9.8	2 4.9
新聞等の広告を見て (n=189)	19 10.1	61 32.3	73 38.6	60 31.7	57 30.2	37 19.6	17 9.0	31 16.4	7 3.7	0 0.0
セミナー・講演会等に 出席して (n=54)	8 14.8	14 25.9	23 42.6	19 35.2	13 24.1	13 24.1	9 16.7	8 14.8	2 3.7	0 0.0
友人・知人に勧められ て (n=162)	14 8.6	48 29.6	53 32.7	32 19.8	37 22.8	38 23.5	17 10.5	24 14.8	9 5.6	0 0.0
インターネットを経由 して(n=345)	6 1.8	263 76.9	59 17.3	91 26.6	200 58.5	18 5.3	6 1.8	9 2.6	21 6.1	0 0.0
その他 (n=95)	11 11.6	21 22.1	34 35.8	17 17.9	12 12.6	12 12.6	7 7.4	20 21.1	21 22.1	2 2.1

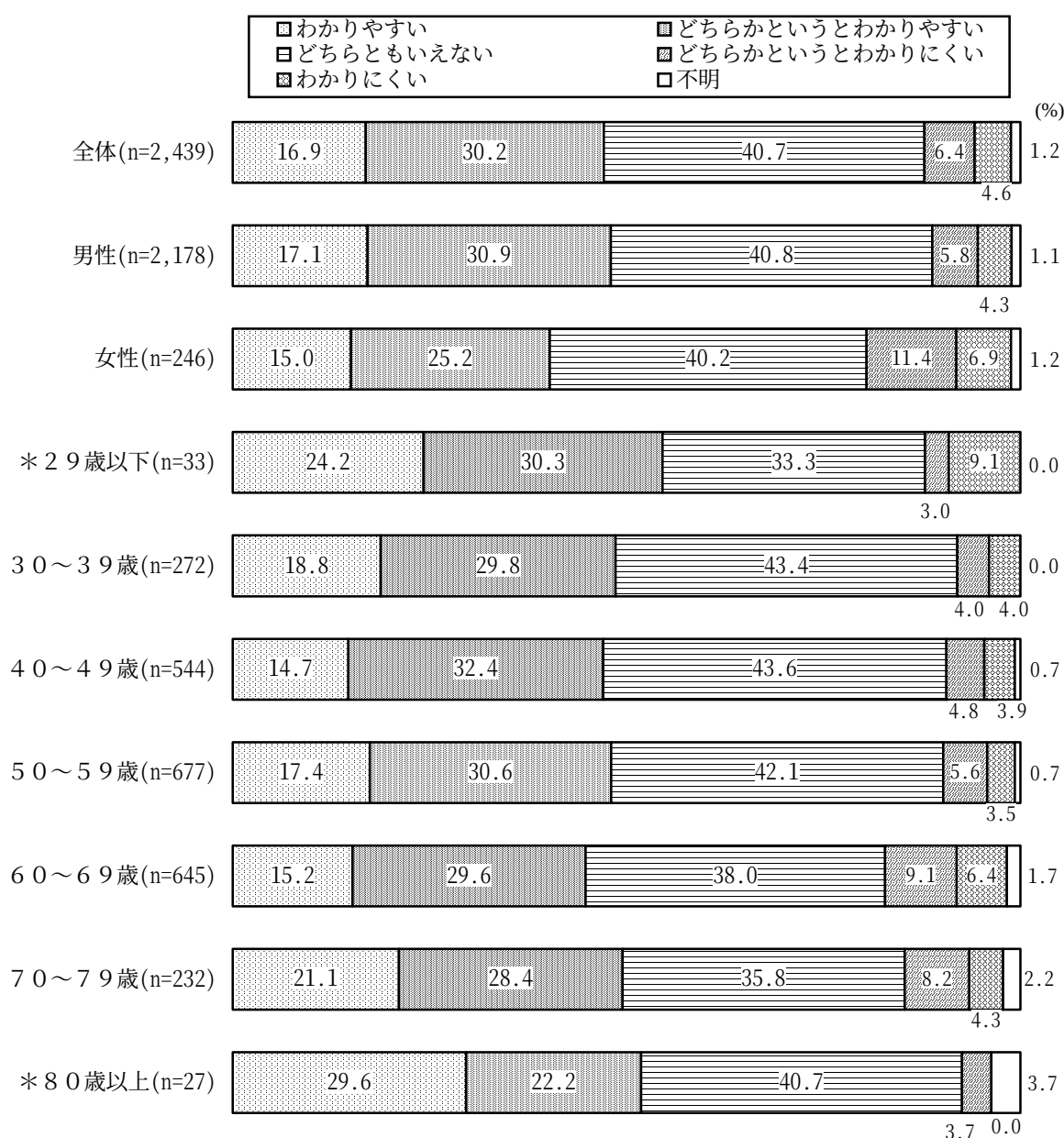
注) 図表中＊印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-9.「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ

「商品先物取引・委託ガイド」のわかりやすさについては、「わかりやすい」が16.9%、「どちらかというわかりやすい」が30.2%となっており、合計すると約5割がわかりやすいとなっている。これに対して、「わかりにくい」は4.6%、「どちらかといえばわかりにくい」が6.4%となっており、合計すると約1割がわかりにくいとなっている。

性別、年齢別でも、わかりやすいとの意見が多いが、「女性」と「60～79歳」でわかりにくいとする意見がやや多くなっている。（図表18）

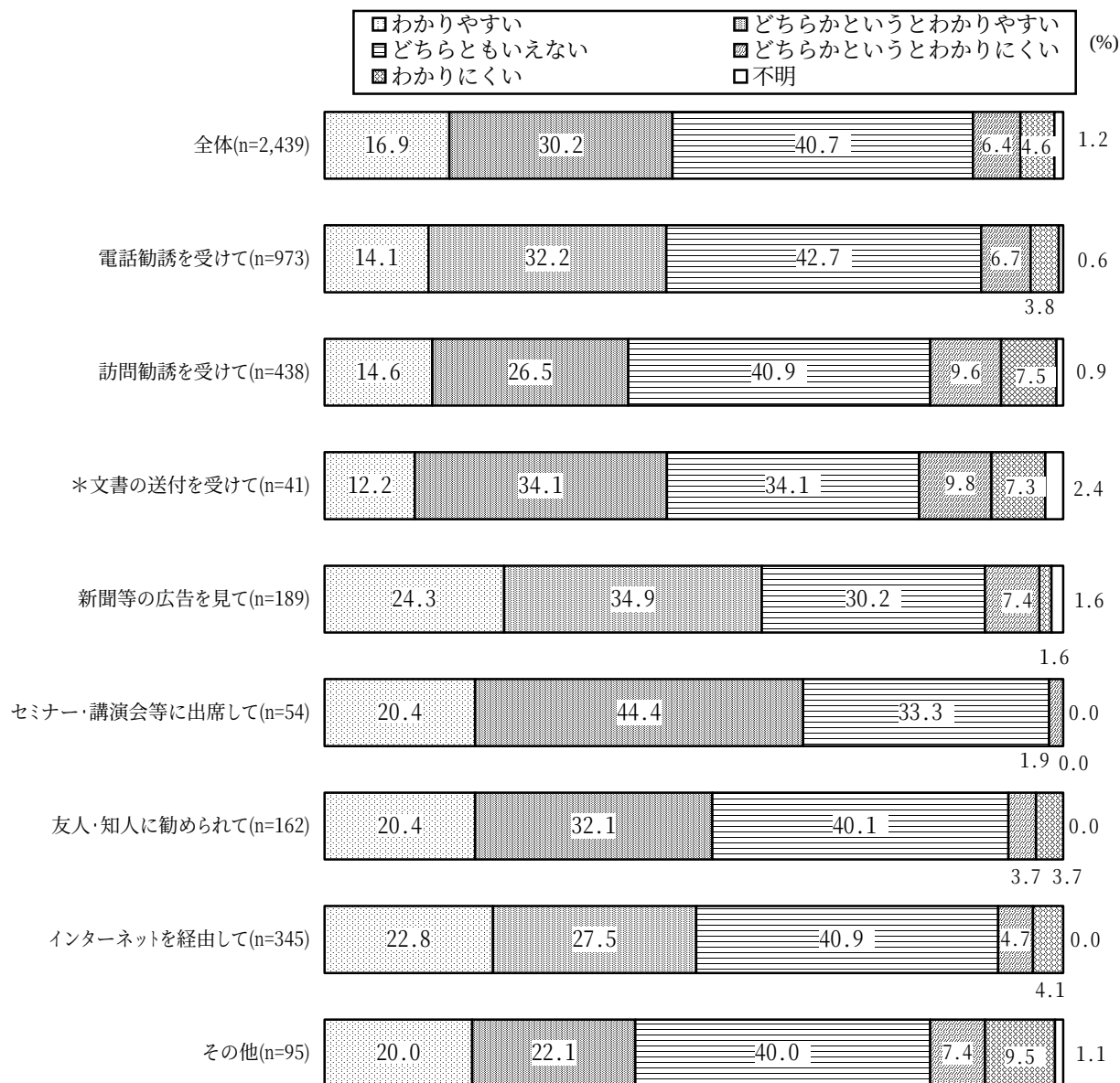
図表 18：「商品先物取引・委託のガイド」のわかりやすさ（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29歳以下、80歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「新聞等の広告を見て」、「セミナー・講演会等に参加して」で「わかりやすい」、「どちらかというわかりやすい」の合計が6割前後と多くなっている。これに対して、「訪問勧誘を受けて」では「わかりやすい」、「どちらかというわかりやすい」の合計が41.1%と少なくなっている。（図表19）

図表 19：「商品先物取引・委託ガイド」のわかりやすさ（取引のきっかけ別）



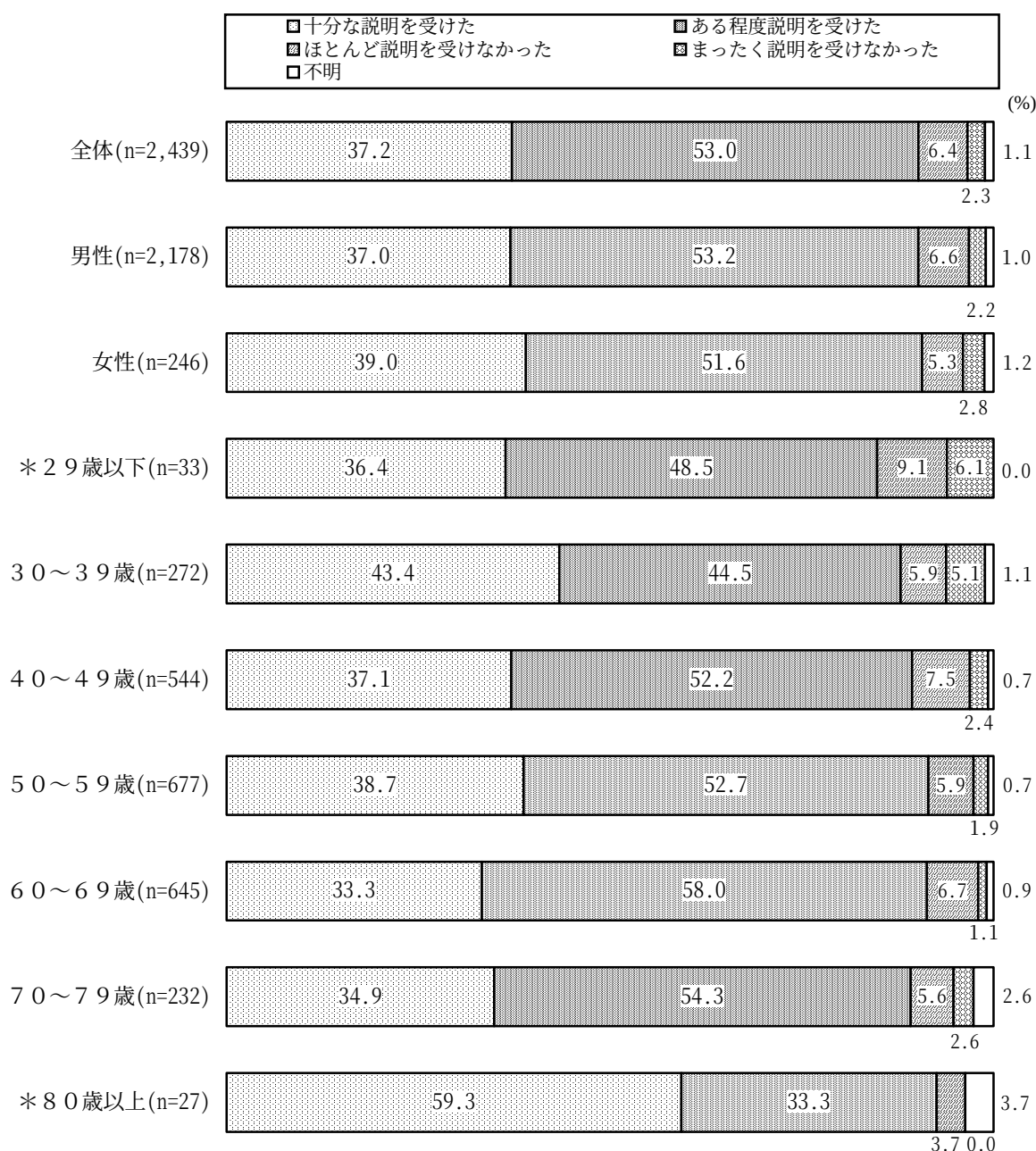
注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-10.商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明

商品先物取引を始める際の説明については、「十分な説明を受けた」が37.2%、「ある程度説明を受けた」が53.0%となっており、合計すると約9割に上っている。これに対して、「ほとんど説明を受けなかった」(6.4%)、「まったく説明を受けなかった」(2.3%)との回答もみられる。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「80歳以上」を除き、大きな違いはみられない。(図表20)

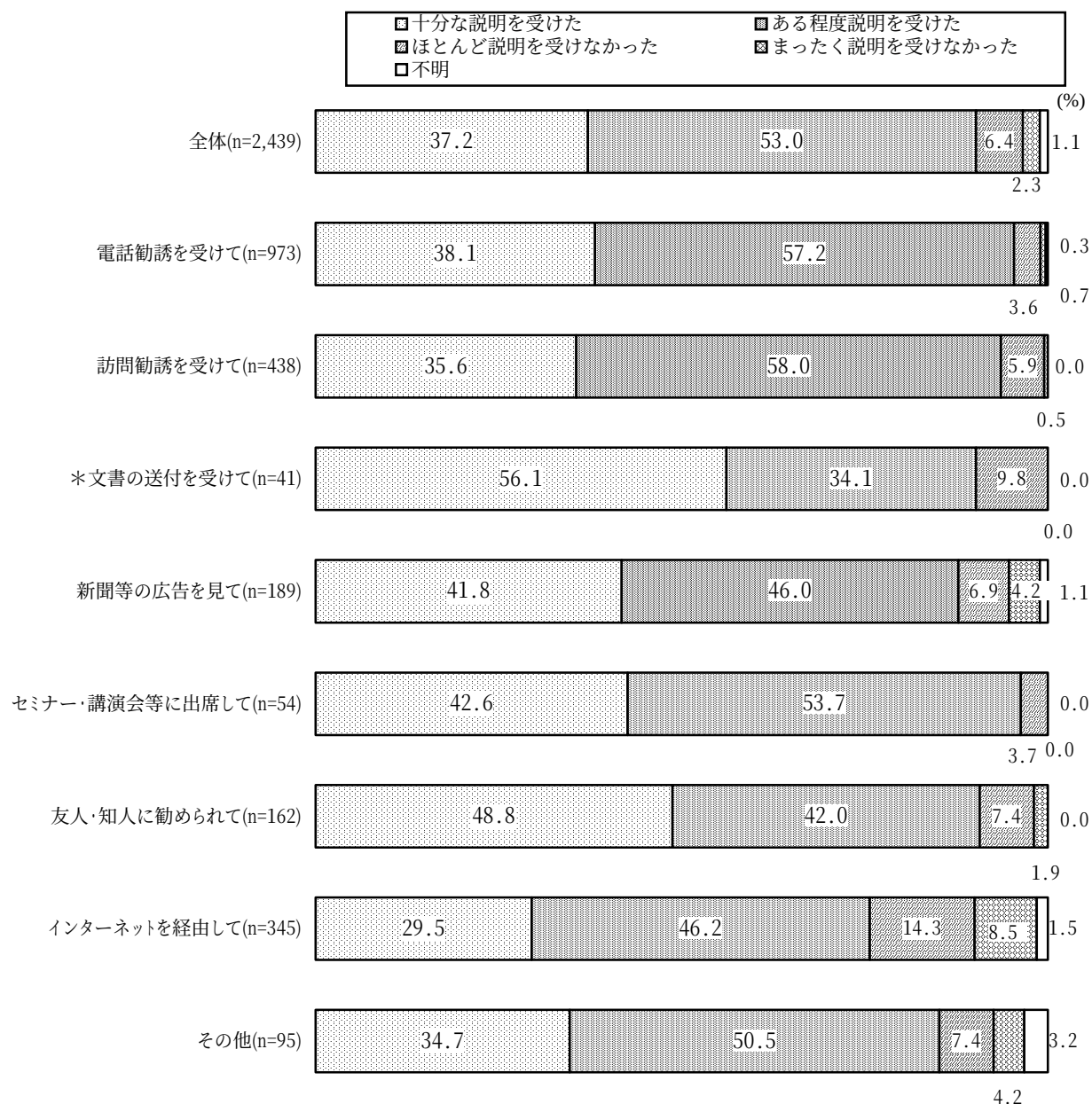
図表 20：商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「インターネットを経由して」で「十分な説明を受けた」が29.5%と少なくなっているが、これはインターネットでの申込みは必ずしも対面での説明が行われるわけではないためと考えられる。(図表21)しかしながら、「Ⅱ－11. 商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解」では「インターネットを経由して」と回答した委託者の理解度は高くなっている。(図表23)

図表 21：商品先物取引を始めるにあたっての商品取引員からの説明（取引のきっかけ別）



注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

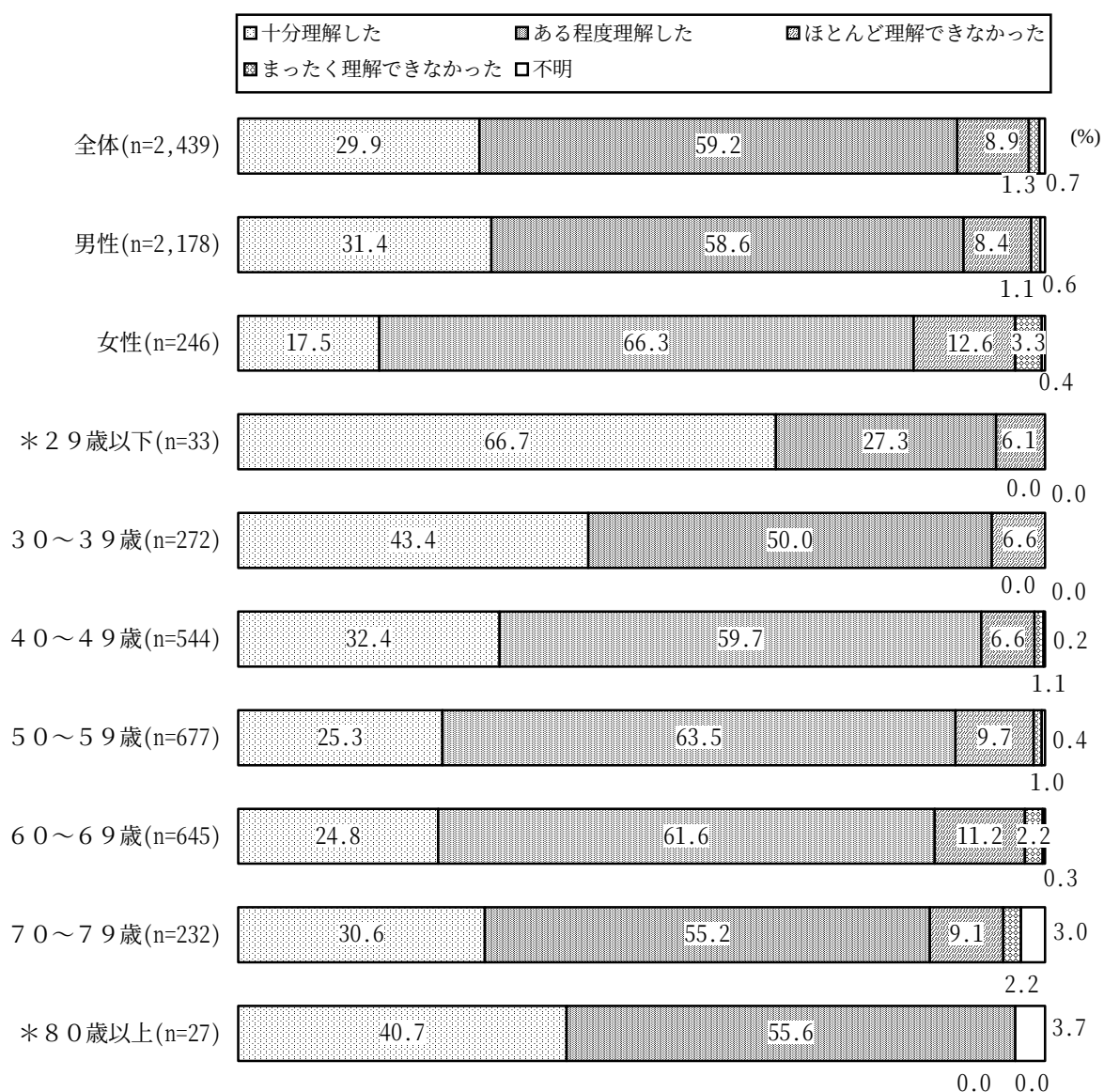
II-11.商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みの理解

商品先物取引を始めるにあたっての商品先物取引の仕組みを理解したかについては、「十分理解した」が29.9%、「ある程度理解した」が59.2%となっており、合計すると約9割に上っている。これに対して、「ほとんど理解できなかった」(8.9%)、「まったく理解できなかった」(1.3%)との回答もみられる。

性別でみると、「女性」で「十分理解した」が17.5%と少なく、「ほとんど理解できなかった」(12.6%)、「まったく理解できなかった」(3.3%)が「男性」と比較してやや多くなっている。

年齢別でみると、「50～79歳」で「ほとんど理解できなかった」、「まったく理解できなかった」の合計が1割を超えている。(図表22)

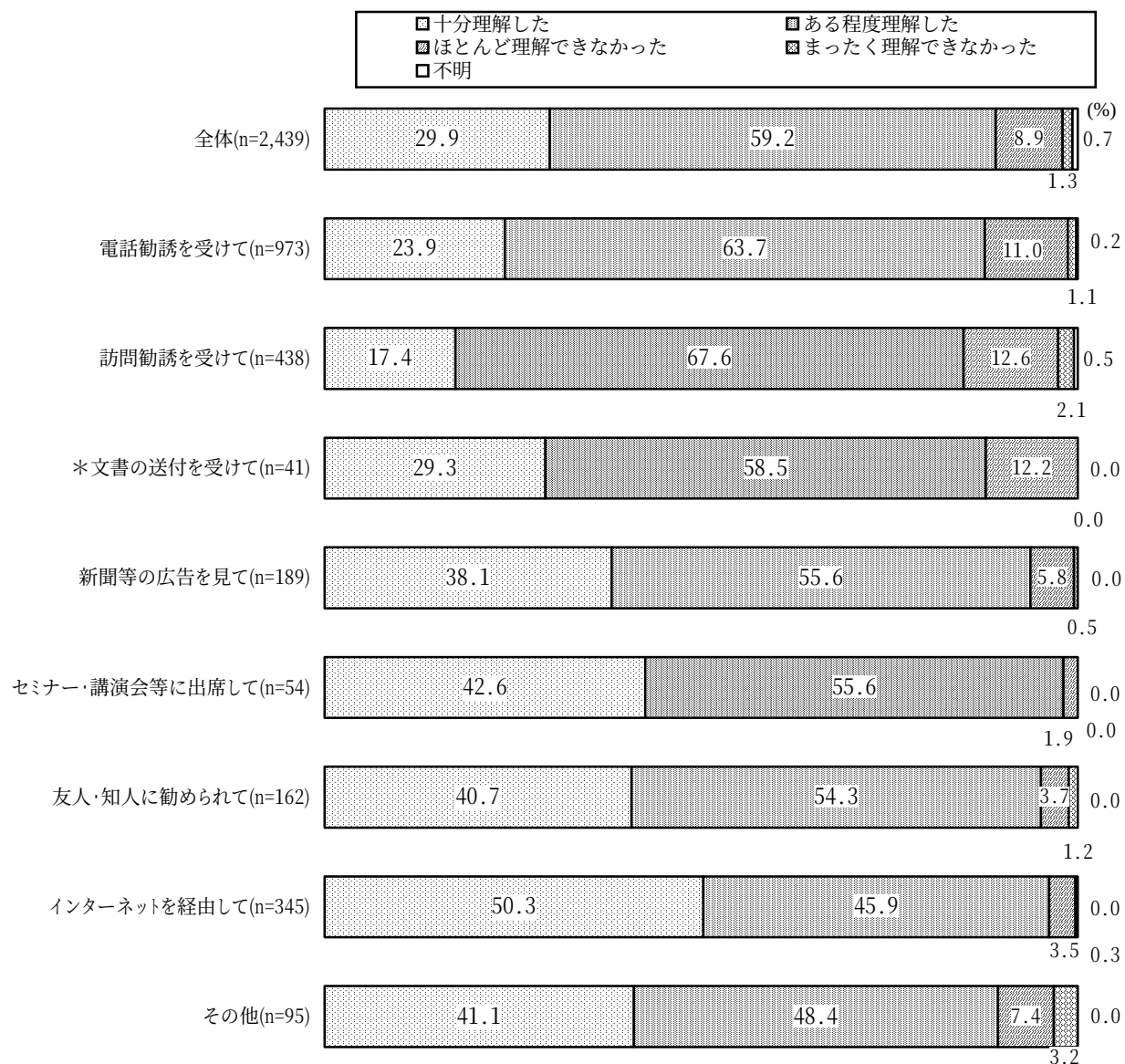
図表 22：商品先物取引の仕組みの理解（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「訪問勧誘を受けて」で「十分理解した」が 17.4%と少なくなっている。また、「電話勧誘を受けて」、「文書の送付を受けて」でも、「十分理解した」が 3 割に満たない。これに対して、「インターネットを経由して」では「十分理解した」が 50.3%と最も多くなっており、「友人・知人に勧められて」、「セミナー・講演会等に出席して」、「新聞等の広告を見て」でも、「十分理解した」が 4 割前後となっている。（図表 23）

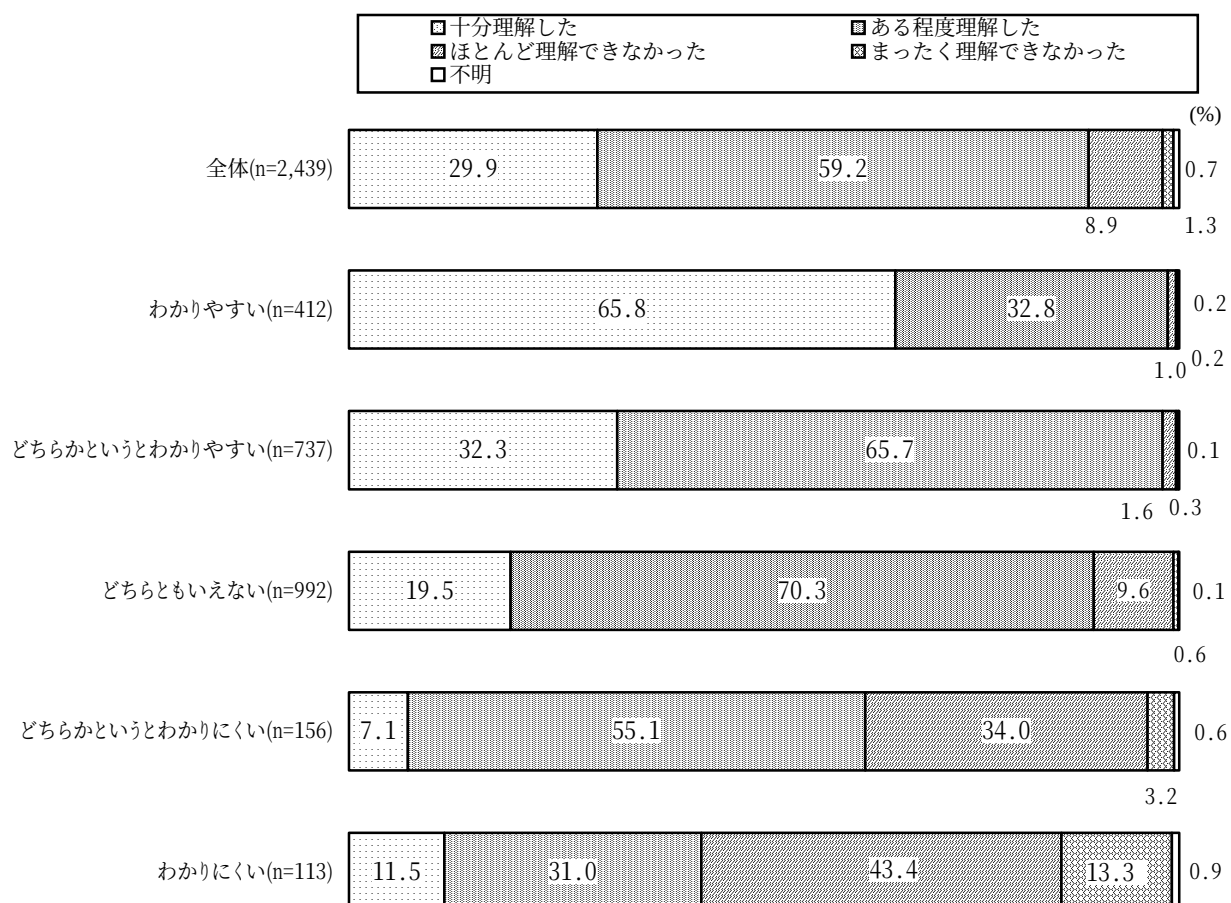
図表 23：商品先物取引の仕組みの理解（取引のきっかけ別）



注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

「商品先物取引・委託ガイド」のわかりやすさ別でみると、「わかりやすい」で「十分理解した」が65.8%と最も多くなっている。また、「どちらともいえない」でも、「十分理解した」、「ある程度理解した」の合計が約9割に上っている。これに対して「わかりにくい」では「ほとんど理解できなかった」、「まったく理解できなかった」の合計が約6割となっている。（図表24）

図表 24：商品先物取引の仕組みの理解（「商品先物取引・委託ガイド」のわかりやすさ別）

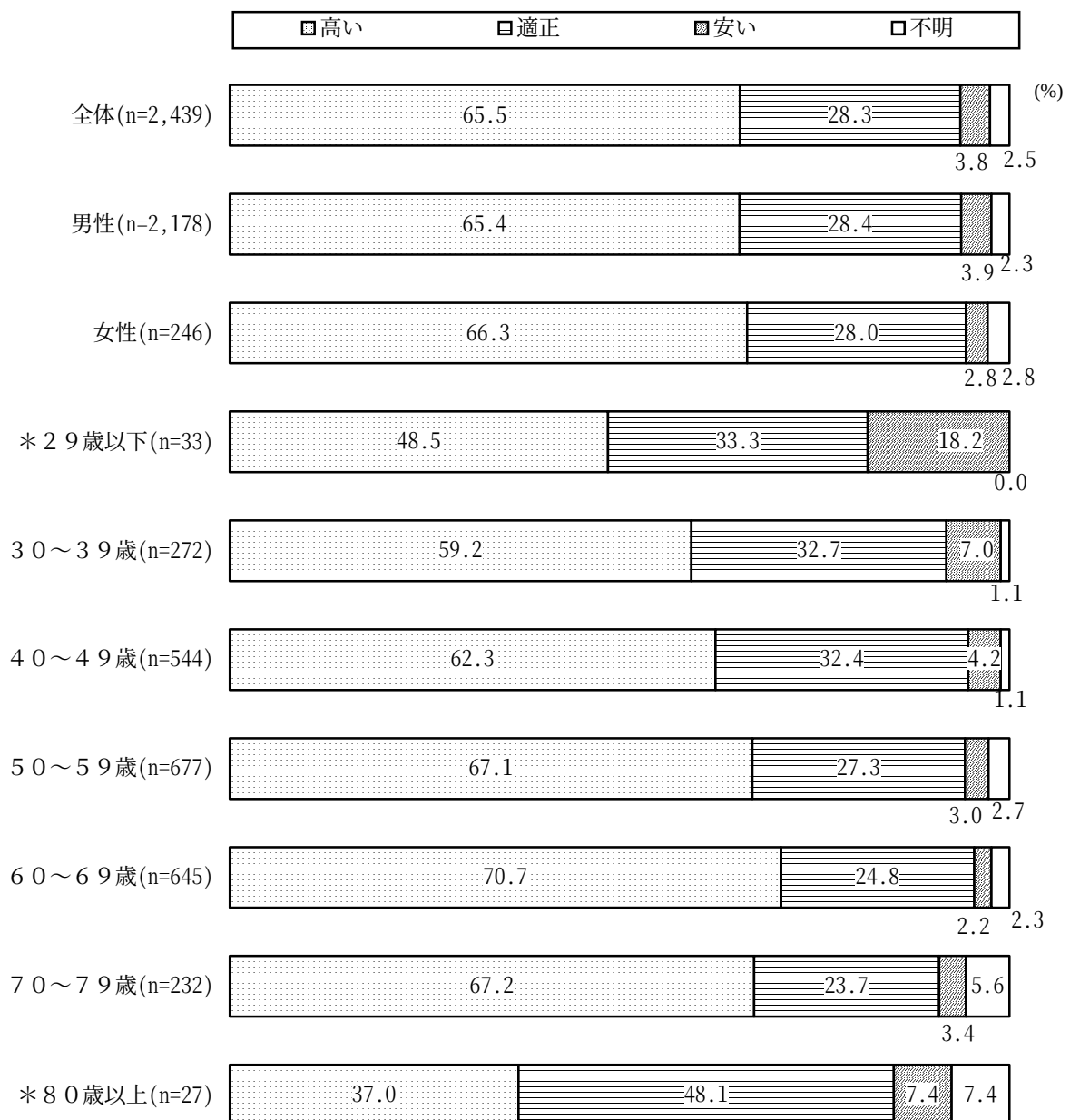


II-12.委託手数料について

委託手数料については、「高い」が 65.5%、「適正」が 28.3%、「安い」が 3.8%となっており、高いと考えている割合が多い。

年齢別でみると、「40 歳代以下」で「適正」が 3 割を超えており、やや多くなっている。(図表 25)

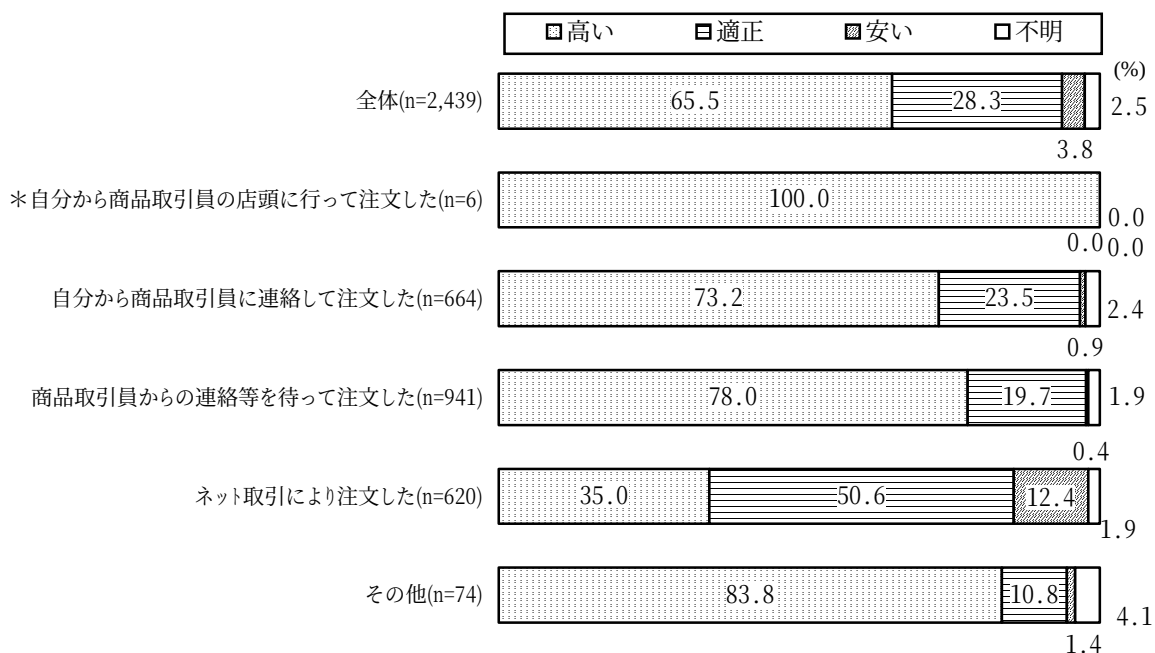
図表 25：委託手数料について（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「ネット取引により注文した」で「適正」が 50.6%、「安い」が 12.4%になっており、適正と考える割合が多くなっている。(図表 26)

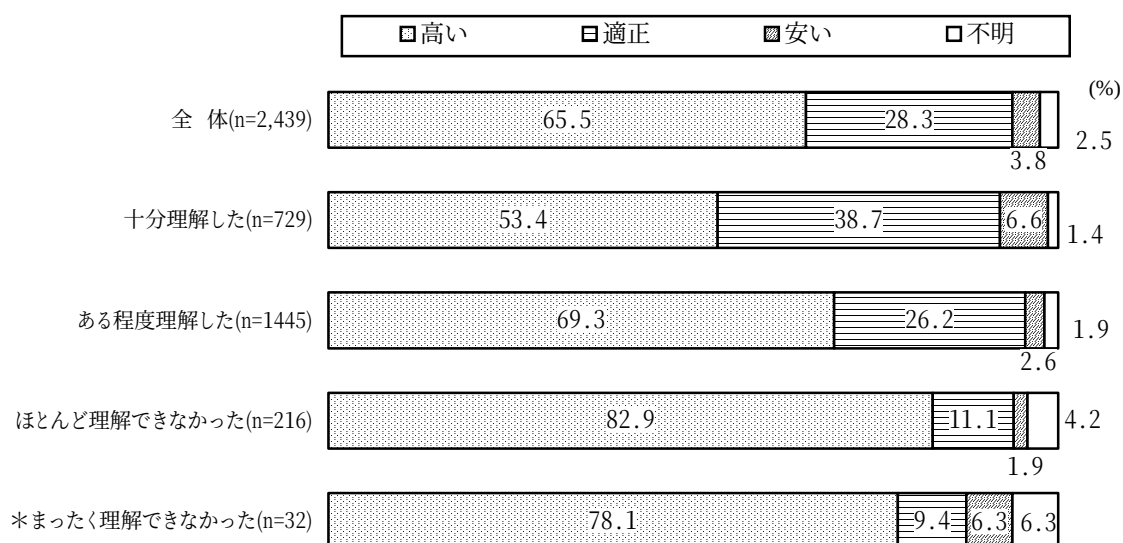
図表 26：委託手数料について（これまでの注文方法別）



注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行って注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

商品先物取引の仕組みの理解別でみると、いずれも「高い」が過半数となっているが、「十分理解した」では「適正」が 38.7%と多くっており、商品先物取引の仕組みを理解している委託者ほど「適正」と考える割合が多い。(図表 27)

図表 27：委託手数料について（商品先物取引の仕組みの理解別）

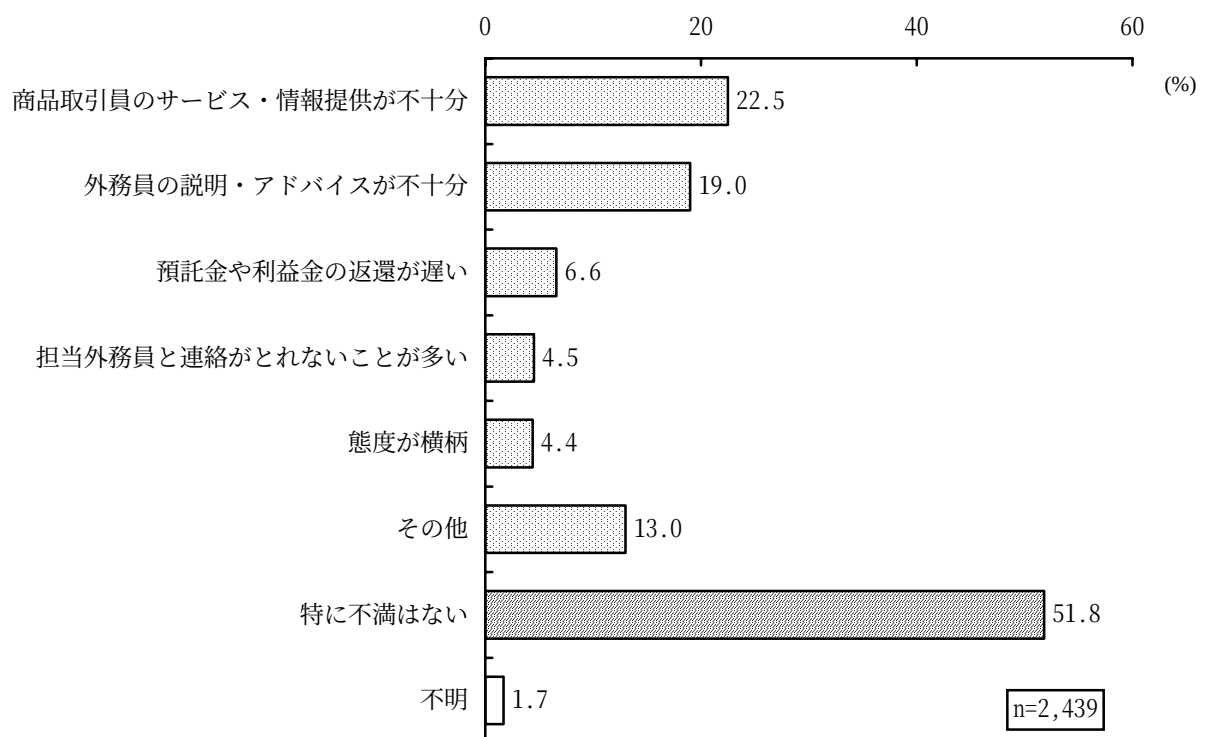


注) 図表中*印のついた「まったく理解できなかった」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II -13.商品取引員に対する不満

商品取引員に対する不満については、「特に不満はない」が51.8%と最も多くなっており、過半数は不満を持っていない。しかしながら、「商品取引員のサービス・情報提供が不十分」(22.5%)、「外務員の説明・アドバイスが不十分」(19.0%)が2割前後となっており、また、「預託金や利益金の返金が遅い」(6.6%)や「担当外務員と連絡がとれないことが多い」(4.5%)との回答もみられる。(図表 28)

図表 28：商品取引員に対する不満（全体）【複数回答】



性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29 歳以下」、「80 歳以上」を除いて、大きな違いはみられない。(図表 29)

図表 29：商品取引員に対する不満（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数／下段%)

	特に不満はない	商品取引員のサービス・情報提供が不十分	外務員の説明・アドバイスが不十分	預託金や利益金の返還が遅い	担当外務員と連絡がとれないことが多い	態度が横柄	その他	不明
全体 (n=2,439)	1,263 51.8	548 22.5	464 19.0	162 6.6	109 4.5	107 4.4	316 13.0	41 1.7
男性 (n=2,178)	1,135 52.1	499 22.9	414 19.0	148 6.8	92 4.2	91 4.2	277 12.7	32 1.5
女性 (n=246)	122 49.6	47 19.1	48 19.5	14 5.7	16 6.5	15 6.1	38 15.4	6 2.4
*29 歳以下 (n=33)	24 72.7	2 6.1	2 6.1	0 0.0	1 3.0	1 3.0	6 18.2	0 0.0
30 歳代 (n=272)	140 51.5	56 20.6	56 20.6	17 6.3	10 3.7	13 4.8	37 13.6	2 0.7
40 歳代 (n=544)	292 53.7	125 23.0	98 18.0	35 6.4	19 3.5	26 4.8	74 13.6	5 0.9
50 歳代 (n=677)	356 52.6	154 22.7	129 19.1	43 6.4	38 5.6	31 4.6	72 10.6	11 1.6
60 歳代 (n=645)	309 47.9	156 24.2	136 21.1	45 7.0	33 5.1	29 4.5	104 16.1	11 1.7
70 歳代 (n=232)	121 52.2	49 21.1	39 16.8	22 9.5	5 2.2	7 3.0	20 8.6	8 3.4
*80 歳以上 (n=27)	20 74.1	3 11.1	3 11.1	0 0.0	2 7.4	0 0.0	2 7.4	1 3.7

注) 図表中*印のついた年齢層(29 歳以下、80 歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で「特に不満はない」が過半数を下回り、また、「外務員の説明・アドバイスが不十分」、「商品取引員のサービス・情報提供が不十分」がやや多くなっている。

商品先物取引の仕組みの理解別でみると、「十分理解した」で「特に不満はない」が 73.8%となっているのに対し、「ほとんど理解できなかった」では「特に不満はない」が 20.8%になるなど、仕組みを十分理解せずに取引をしている委託者で不満を持つ割合が多くなっている。

これまでの注文方法別でみると、「自分から商品取引員に連絡して注文した」、「ネット取引により注文した」で「特に不満はない」が過半数となっているが、「商品取引員からの連絡を待って注文した」では「特に不満はない」は 36.8%となっており、約 6 割が不満を持っている。

(図表 30)

図表 30：商品取引員に対する不満（取引のきっかけ別等）【複数回答】

（上段実数／下段％）

		特に不満はない	商品取引員のサービス・情報提供が不十分	外務員の説明・アドバイスが不十分	預託金や利益金の返還が遅い	担当外務員と連絡がとれないことが多い	態度が横柄	その他	不明
全体 (n=2,439)		1,263 51.8	548 22.5	464 19.0	162 6.6	109 4.5	107 4.4	316 13.0	41 1.7
取引のきっかけ	電話勧誘を受けて (n=973)	416 42.8	251 25.8	267 27.4	77 7.9	60 6.2	57 5.9	125 12.8	18 1.8
	訪問勧誘を受けて (n=438)	191 43.6	104 23.7	126 28.8	49 11.2	22 5.0	24 5.5	47 10.7	3 0.7
	*文書の送付を受けて (n=41)	23 56.1	10 24.4	5 12.2	1 2.4	1 2.4	1 2.4	4 9.8	0 0.0
	新聞等の広告を見て (n=189)	126 66.7	22 11.6	30 15.9	9 4.8	5 2.6	4 2.1	22 11.6	0 0.0
	セミナー・講演会等に出席して (n=54)	30 55.6	7 13.0	5 9.3	1 1.9	1 1.9	1 1.9	9 16.7	2 3.7
	友人・知人に勧められて (n=162)	113 69.8	17 10.5	21 13.0	8 4.9	4 2.5	2 1.2	16 9.9	0 0.0
	インターネットを経由して (n=345)	248 72.5	15 4.4	45 13.2	4 1.2	3 0.9	5 1.5	47 13.7	3 0.9
	その他(n=95)	53 55.8	7 7.4	16 16.8	1 1.1	2 2.1	4 4.2	25 26.3	0 0.0
商品先物取引の理解	十分理解した(n=729)	538 73.8	50 6.9	74 10.2	29 4.0	12 1.6	13 1.8	71 9.7	4 0.5
	ある程度理解した(n=1,445)	674 46.6	309 21.4	391 27.1	100 6.9	70 4.8	58 4.0	179 12.4	16 1.1
	ほとんど理解できなかった (n=216)	45 20.8	91 42.1	72 33.3	30 13.9	21 9.7	30 13.9	56 25.9	6 2.8
	*まったく理解できなかった (n=32)	5 15.6	12 37.5	10 31.3	3 9.4	4 12.5	6 18.8	9 28.1	2 6.3
これまでの注文方法	*自分から商品取引員の店頭 に行って注文した (n=6)	4 66.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	自分から商品取引員に連絡して 注文した(n=664)	396 59.6	103 15.5	139 20.9	51 7.7	30 4.5	23 3.5	43 6.5	9 1.4
	商品取引員からの連絡等を待 って注文した (n=941)	346 36.8	282 30.0	288 30.6	82 8.7	55 5.8	50 5.3	132 14.0	13 1.4
	ネット取引により注文した (n=620)	449 72.4	31 5.0	66 10.6	9 1.5	8 1.3	11 1.8	85 13.7	7 1.1
	その他(n=74)	11 14.9	20 27.0	19 25.7	5 6.8	7 9.5	7 9.5	35 47.3	4 5.4

注) 図表中*印のついた項目はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-14.注文方法について

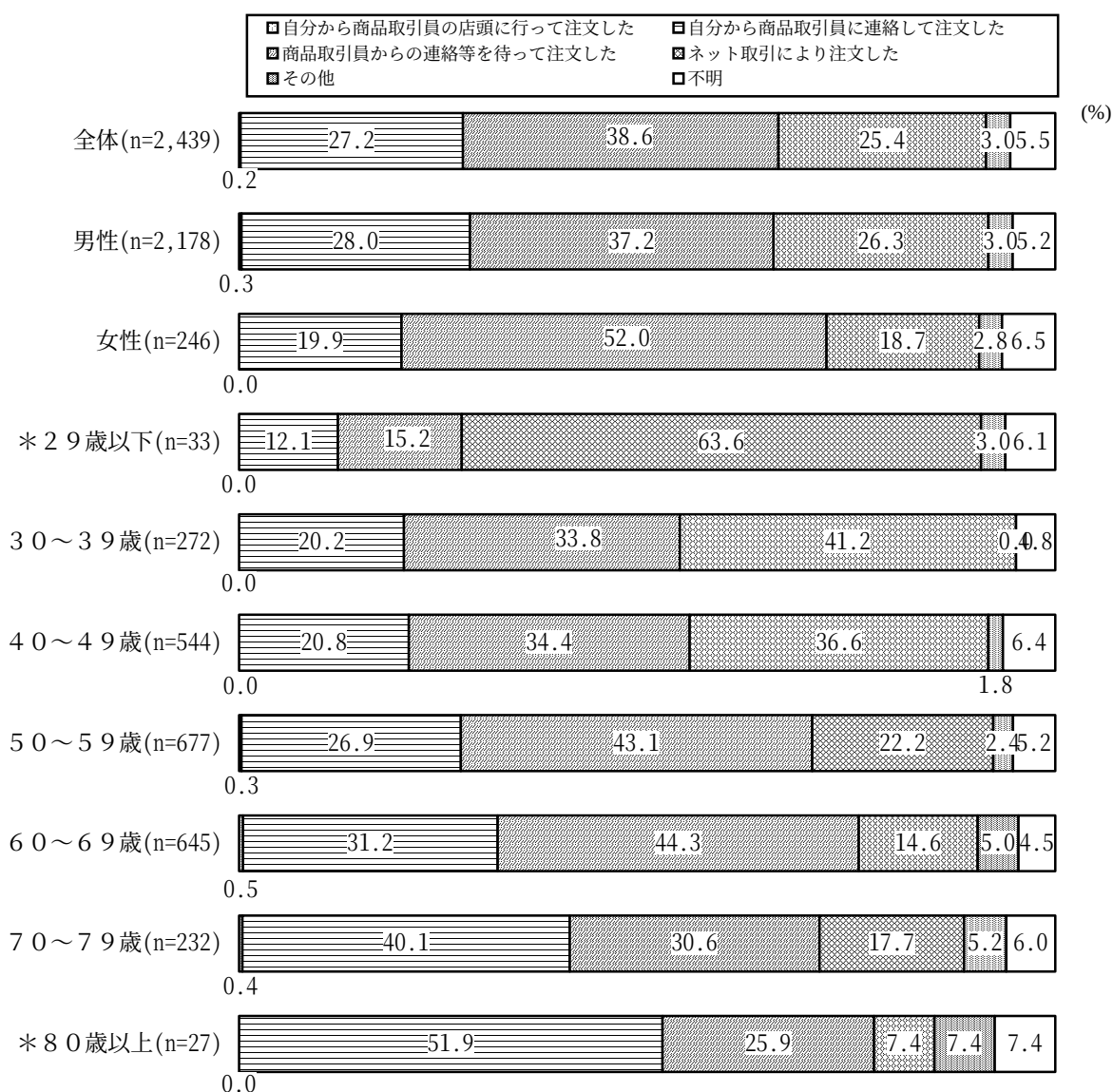
(1)これまでの注文方法

これまでの注文方法については、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が38.6%と最も多くなっており、次いで、「自分から商品取引員に連絡して注文した」(27.2%)、「ネット取引により注文した」(25.4%)となっている。

性別でみると、「女性」で「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が52.0%と多くなっている。

年齢別でみると、「40歳代以下」で「ネット取引により注文した」が4割前後となっており、また、年齢層が高くなるほど「自分から商品取引員に連絡して注文した」が多くなる傾向がみられる。(図表31)

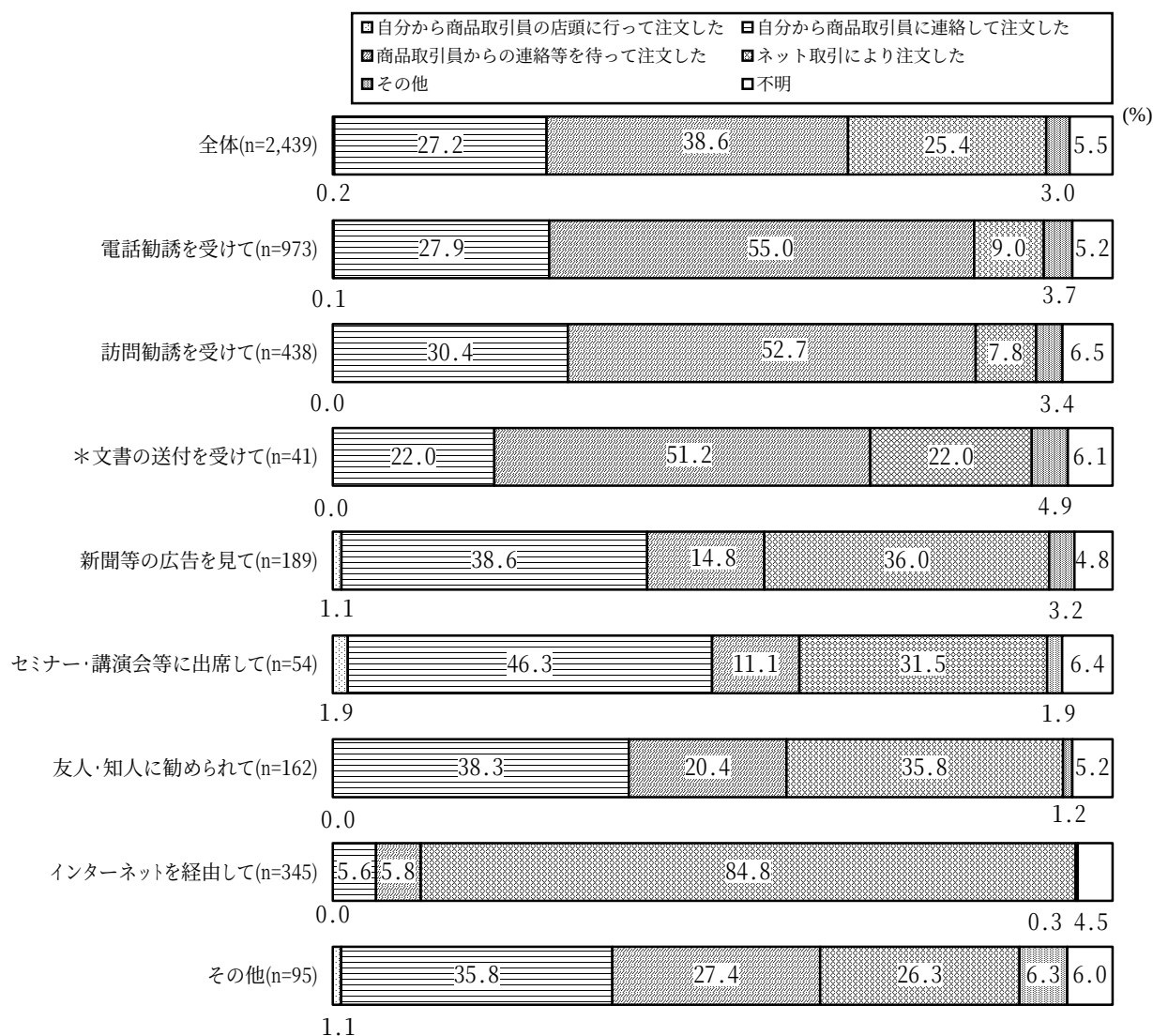
図表 31：これまでの注文方法（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」、「文書の送付を受けて」で、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」が過半数となっている。これに対して、「新聞等の広告を見て」、「セミナー・講演会等に参加して」、「友人・知人に勧められて」では、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」は少なく、「自分から商品取引員に連絡して注文した」、「ネット取引により注文した」が多くなっている。また、「インターネットを経由して」では「ネット取引により注文した」が84.8%と最も多くなっている。（図表 32）

図表 32：これまでの注文方法（取引のきっかけ別）



注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

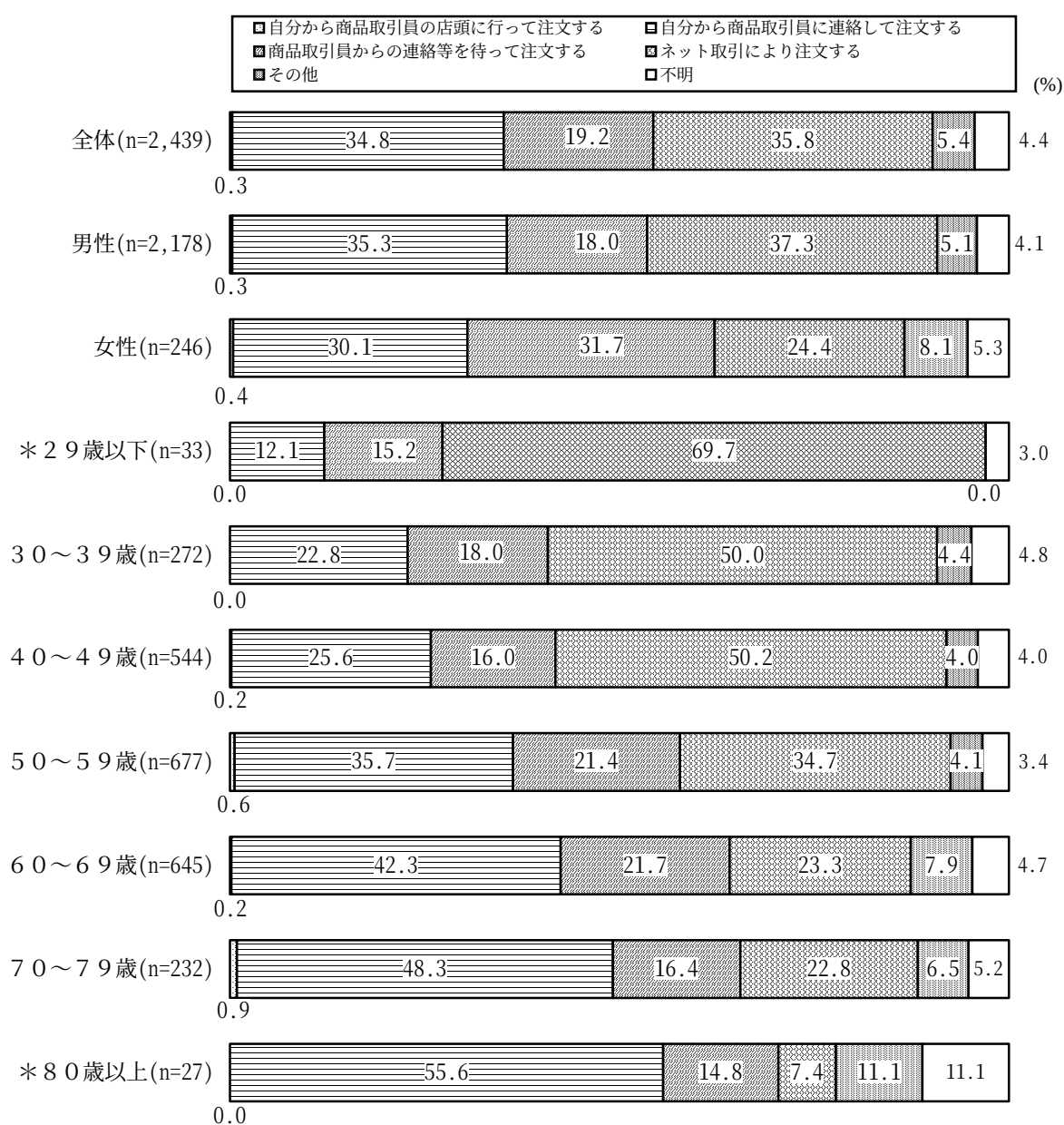
(2)これからの注文方法

これからの注文方法については、「ネット取引により注文する」(35.8%)、「自分から商品取引員に連絡して注文する」(34.8%)が多くなっており、これまでの注文方法で最も多かった「商品取引員からの連絡等を待って注文する」は19.2%と半分以下になっている。

性別でみると、「女性」で「商品取引員からの連絡等を待って注文する」が31.7%とやや多くなっている。

年齢別でみると、「40歳代以下」で「ネット取引により注文する」が過半数を超えており、また、年齢層が高くなるほど「自分から商品取引員に連絡して注文する」が多くなる傾向がみられる。(図表33)

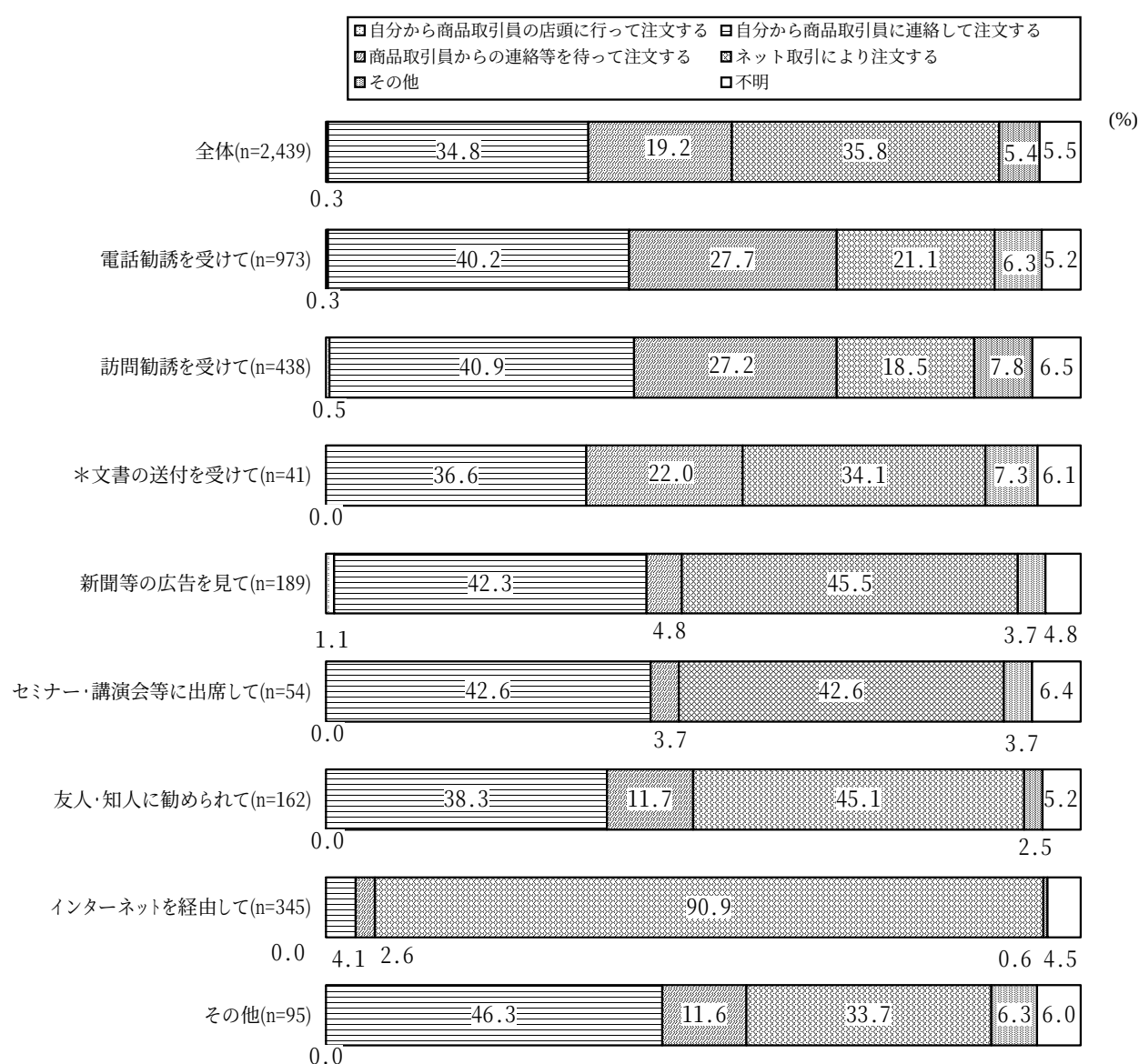
図表 33：これからの注文方法（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「電話勧誘を受けて」、「訪問勧誘を受けて」で、「自分から取引員に連絡して注文する」が約 4 割と多くなっているが、「商品取引員からの連絡等を待って注文する」も約 3 割と多くなっている。これに対して、「新聞等の広告を見て」、「セミナー・講演会等」に出席して、「友人・知人に勧められて」では、「自分から商品取引員に連絡して注文する」、「ネット取引により注文する」が多くなっている。また、「インターネットを經由して」では「ネット取引により注文する」が 90.9%と最も多くなっている。(図表 34)

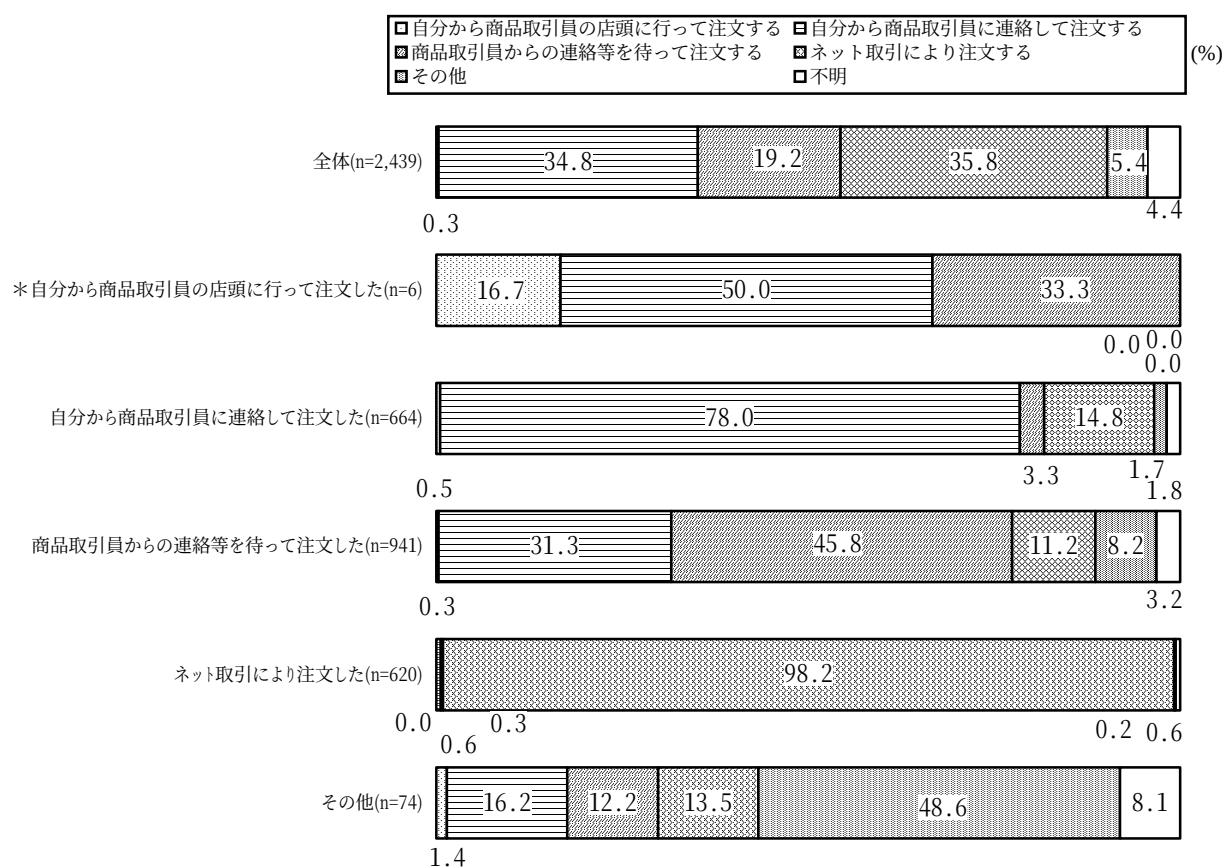
図表 34：これからの注文方法（取引のきっかけ別）



注) 図表中*印のついた「文書の送付を受けて」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「自分から商品取引員に連絡して注文した」で、これまでと同じ「自分から商品取引員に連絡して注文する」が78.0%と多くなっているが、「ネット取引により注文する」が14.8%となっており、委託者の一部はネット取引にシフトしていくものと考えられる。また、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」で、「商品取引員からの連絡等を待って注文する」が45.8%となっており、今後は「自分から商品取引員に連絡して注文する」が31.3%、「ネット取引により注文する」が11.2%となっている。「ネット取引により注文した」では「ネット取引により注文する」が98.2%で、現在の注文方法を継続する傾向が高い。(図表35)

図表 35：これからの注文方法（これまでの注文方法別）

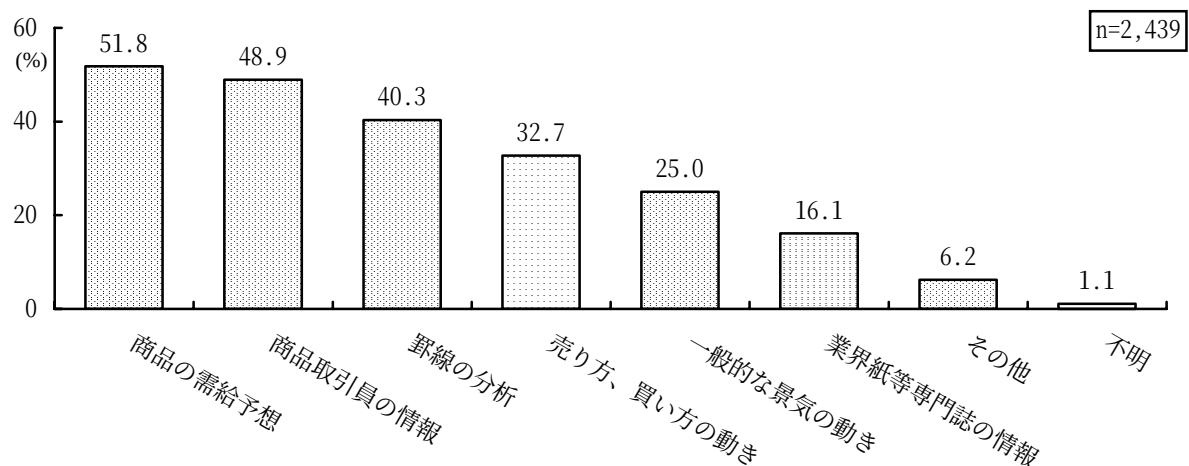


注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行き注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II -15.商品先物取引の判断材料

商品先物取引の判断材料については、「商品の需給予想」（51.8%）、「商品取引員の情報」（48.9%）が約5割と多くなっている。次いで、「罫線の分析」（40.3%）、「売り方、買い方の動き」（32.7%）となっている。（図表 36）

図表 36：商品先物取引の判断材料（全体）【複数回答】



性別でみると、「女性」で「商品取引員の情報」が61.4%と多くなっている。

年齢別でみると、「40 歳代以下」で「罫線の分析」がやや多くなっている。（図表 37）

図表 37：商品先物取引の判断材料（性別、年齢別）【複数回答】

(上段実数／下段%)								
	商品の需給予想	商品取引員の情報	罫線の分析	売り方、買い方の動き	一般的な景気の動き	業界紙等専門誌の情報	その他	不明
全体 (n=2,439)	1,264 51.8	1,193 48.9	982 40.3	798 32.7	609 25.0	393 16.1	151 6.2	28 1.1
男性 (n=2,178)	1,155 53.0	1,039 47.7	917 42.1	724 33.2	539 24.7	357 16.4	133 6.1	20 0.9
女性 (n=246)	103 41.9	151 61.4	61 24.8	71 28.9	69 28.0	32 13.0	17 6.9	4 1.6
*29 歳以下 (n=33)	16 48.5	7 21.2	18 54.5	12 36.4	7 21.2	2 6.1	0 0.0	0 0.0
30 歳代 (n=272)	148 54.4	116 42.6	126 46.3	99 36.4	65 23.9	23 8.5	20 7.4	1 0.4
40 歳代 (n=544)	256 47.1	249 45.8	259 47.6	186 34.2	118 21.7	67 12.3	41 7.5	2 0.4
50 歳代 (n=677)	374 55.2	331 48.9	252 37.2	230 34.0	190 28.1	104 15.4	35 5.2	8 1.2
60 歳代 (n=645)	330 51.2	365 56.6	207 32.1	201 31.2	155 24.0	126 19.5	36 5.6	13 2.0
70 歳代 (n=232)	123 53.0	114 49.1	102 44.0	62 26.7	67 28.9	67 28.9	18 7.8	0 0.0
*80 歳以上 (n=27)	13 48.1	11 40.7	16 59.3	8 29.6	7 25.9	4 14.8	1 3.7	0 0.0

注) 図表中*印のついた年齢層(29 歳以下、80 歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引のきっかけ別でみると、「訪問勧誘を受けて」、「電話勧誘を受けて」で、「商品取引員の情報」が6割前後と多くなっている。また、「新聞等の広告を見て」、「セミナー・講演会等に出席して」、「友人・知人に勧められて」では、「商品の需給予想」が最も多く、次いで「罫線の分析」となっている。これに対して、「インターネットを經由して」では「罫線の分析」が最も多く、次いで「商品の需給予想」となっており、「商品取引員の情報」は少なくなっている。

これまでの注文方法別でみると、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」で「商品取引員の情報」が72.3%、「ネット取引により注文した」で「罫線の分析」が68.7%と最も多くなっている。（図表38）

図表 38：商品先物取引の判断材料（取引のきっかけ、注文方法別）【複数回答】

（上段実数／下段％）

		商品の需給予想	商品取引員の情報	罫線の分析	売り方、買い方の動き	一般的な景気の動き	業界紙等専門誌の情報	その他	不明
全体 (n=2,439)		1,264 51.8	1,193 48.9	982 40.3	798 32.7	609 25.0	393 16.1	151 6.2	28 1.1
取引のきっかけ	電話勧誘を受けて (n=973)	510 52.4	583 59.9	299 30.7	307 31.6	230 23.6	156 16.0	46 4.7	9 0.9
	訪問勧誘を受けて (n=438)	194 44.3	282 64.4	113 25.8	130 29.7	111 25.3	67 15.3	20 4.6	10 2.3
	*文書の送付を受けて (n=41)	23 56.1	17 41.5	14 34.1	12 29.3	14 34.1	8 19.5	2 4.9	1 2.4
	新聞等の広告を見て (n=189)	109 57.7	67 35.4	102 54.0	81 42.9	58 30.7	46 24.3	13 6.9	1 0.5
	セミナー・講演会等に出席して (n=54)	37 68.5	23 42.6	27 50.0	19 35.2	16 29.6	17 31.5	1 1.9	0 0.0
	友人・知人に勧められて (n=162)	83 51.2	63 38.9	75 46.3	59 36.4	40 24.7	20 12.3	6 3.7	1 0.6
	インターネットを經由して (n=345)	178 52.0	55 16.1	238 69.6	122 35.7	66 19.3	31 9.1	37 10.8	1 0.3
	その他(n=95)	49 51.6	37 38.9	51 53.7	27 28.4	30 31.6	13 13.7	10 10.5	0 0.0
これまでの注文方法	*自分から商品取引員の店頭に行って注文した (n=6)	4 66.7	3 50.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0
	自分から商品取引員に連絡して注文した(n=664)	386 58.1	334 50.3	275 41.4	263 39.6	186 28.0	136 20.5	30 4.5	3 0.5
	商品取引員からの連絡等を待って注文した (n=941)	445 47.3	680 72.3	189 20.1	228 24.2	221 23.5	131 13.9	36 3.8	16 1.7
	ネット取引により注文した (n=620)	323 52.1	76 12.3	426 68.7	233 37.6	148 23.9	84 13.5	57 9.2	0 0.0
	その他(n=74)	27 36.5	36 48.6	23 31.1	24 32.4	16 21.6	12 16.2	17 23.0	4 5.4

注) 図表中*印のついた項目はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

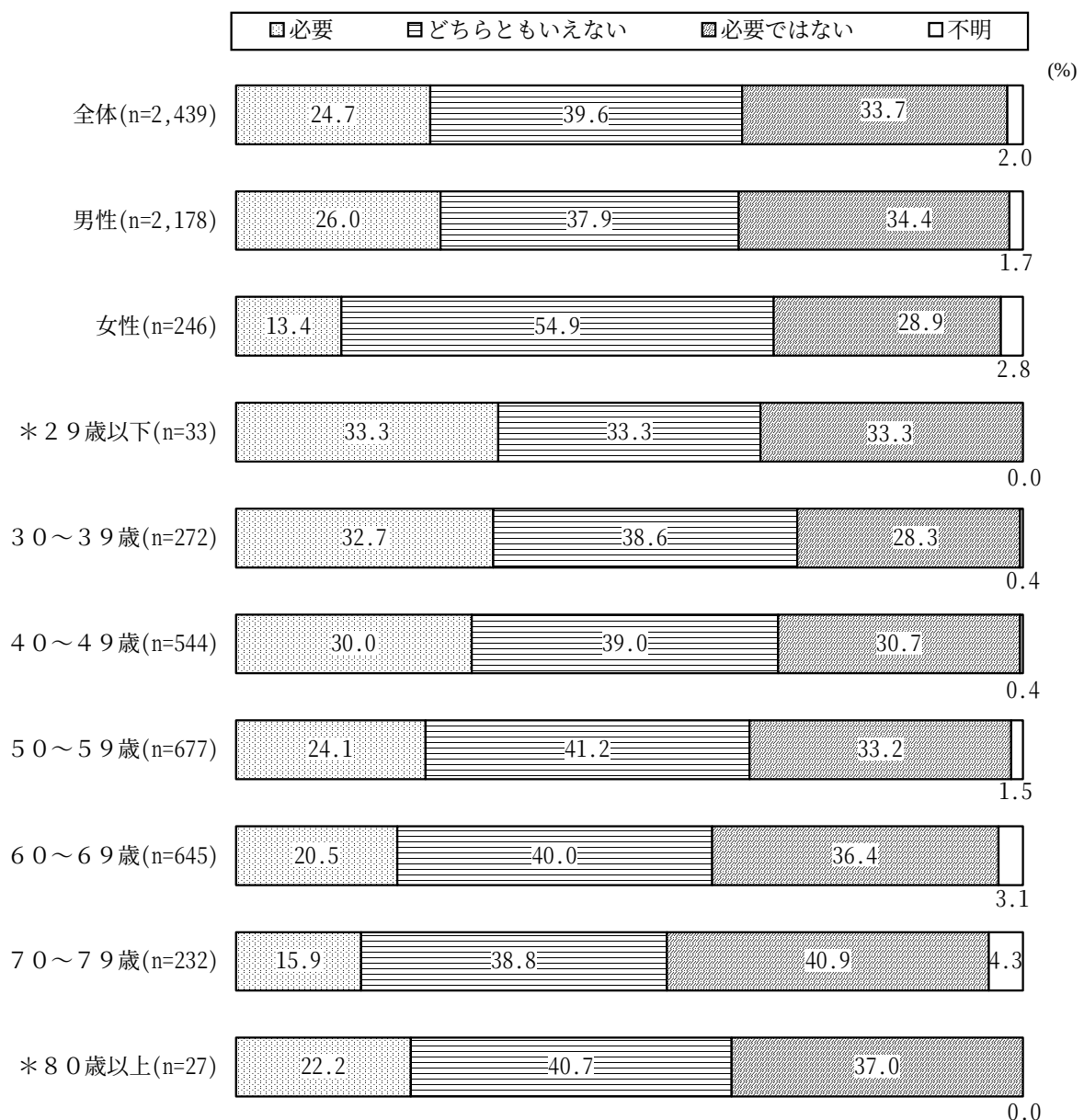
II -16.夜間取引の必要性

夜間取引の必要性については、「必要」が 24.7%、「必要ではない」が 33.7%となっているが、「どちらともいえない」が 39.6%と最も多くなっている。

性別でみると、「女性」で「必要」が 13.4%と少なく、「どちらともいえない」が 54.9%と多くなっている。

年齢別でみると、「39 歳以下」で「必要」がやや多くなっている。(図表 39)

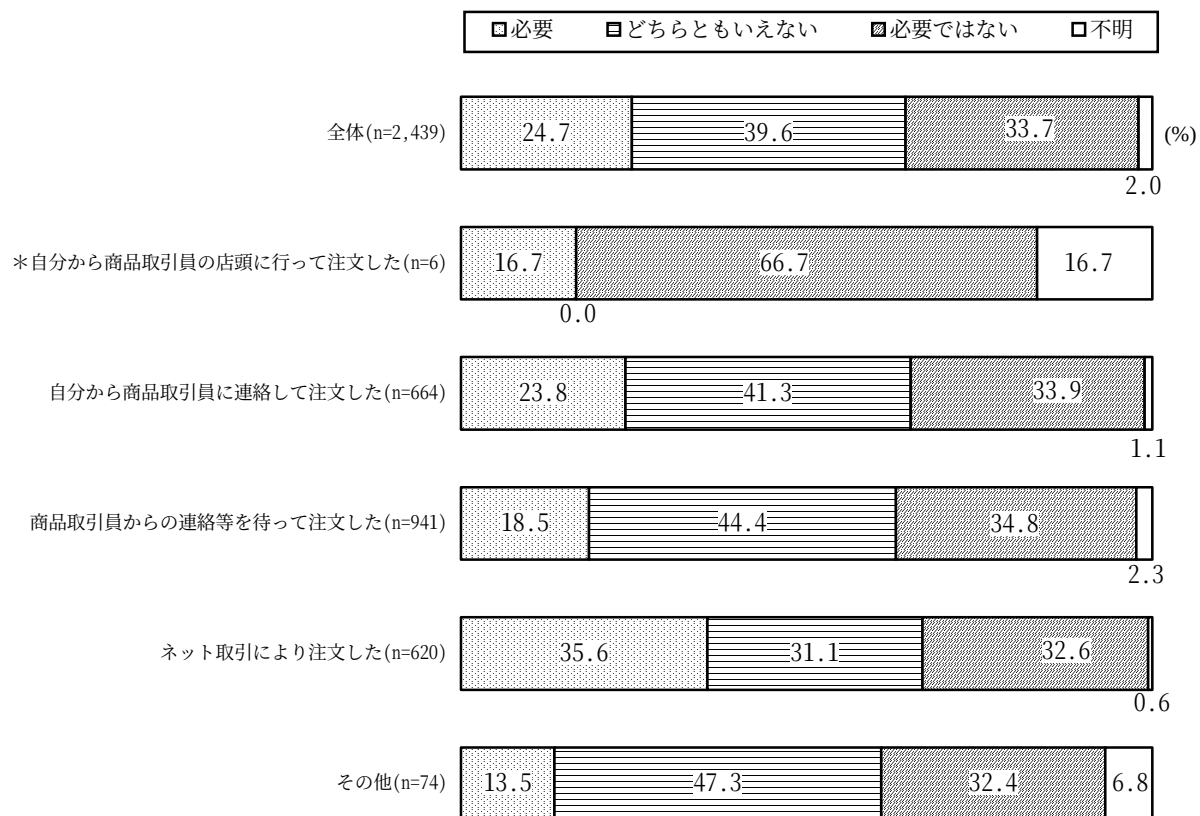
図表 39：夜間取引の必要性（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「ネット取引により注文した」で「必要」が 35.6%と多くなっている。(図表 40)

図表 40：夜間取引の必要性（これまでの注文方法別）



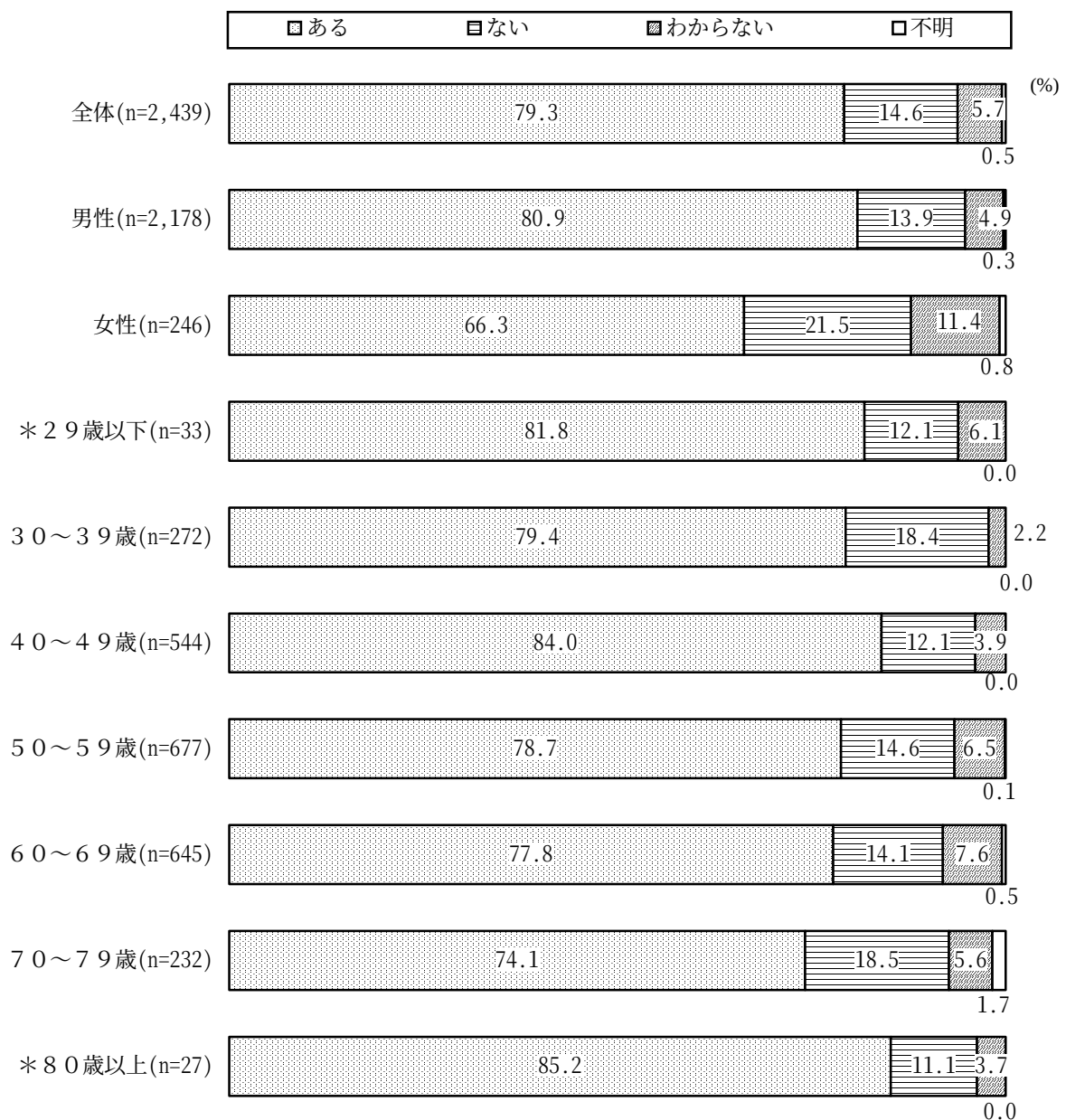
注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行って注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-17.ストップ高、ストップ安による取引停止経験

ストップ高、ストップ安による取引の停止経験については、「ある」が79.3%、「ない」が14.6%となっている。

性別でみると、「女性」で「ある」が66.3%となっており、「男性」の80.9%と比較して少なくなっている。(図表41)

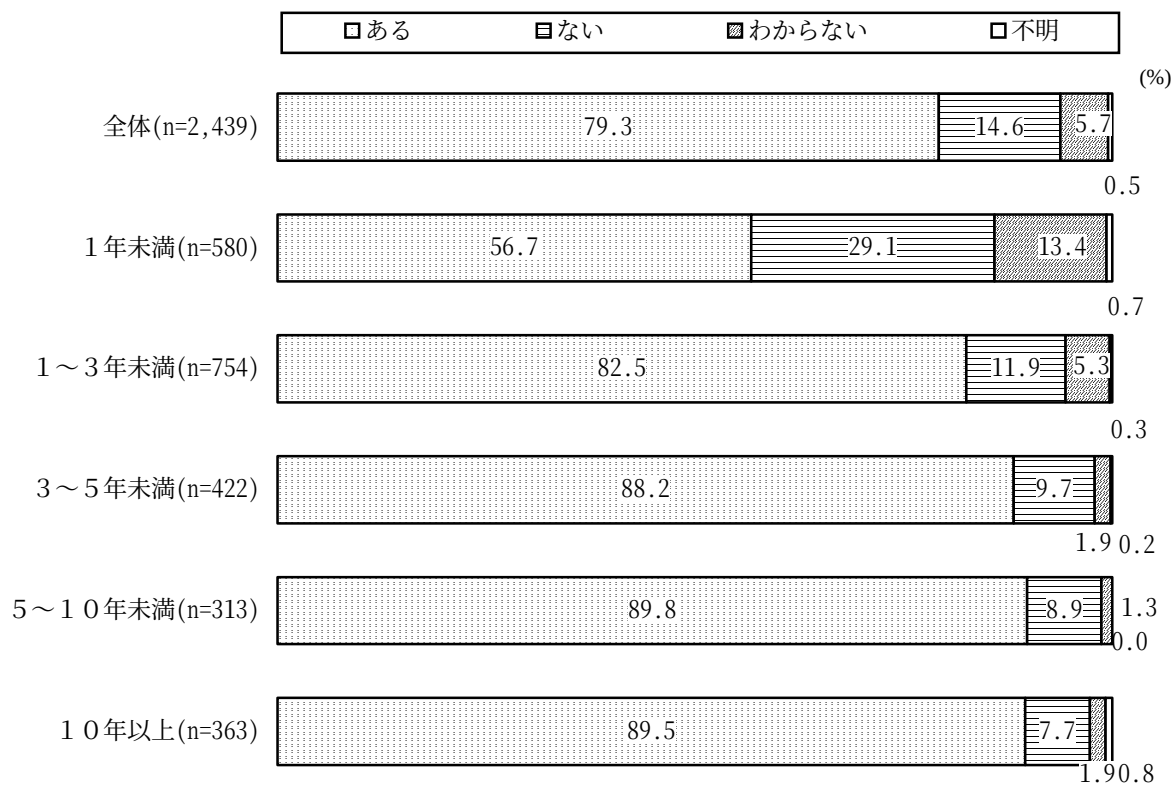
図表 41：ストップ高、ストップ安による取引停止経験（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引の経験年数（累積）別でみると、「1 年未満」で「ある」が 56.7%と 6 割以下となっているが、「1～3 年未満」で 8 割を超えており、「3 年以上」では約 9 割となっている。（図表 42）

図表 42：ストップ高、ストップ安による取引停止経験（取引経験年数（累積）別）



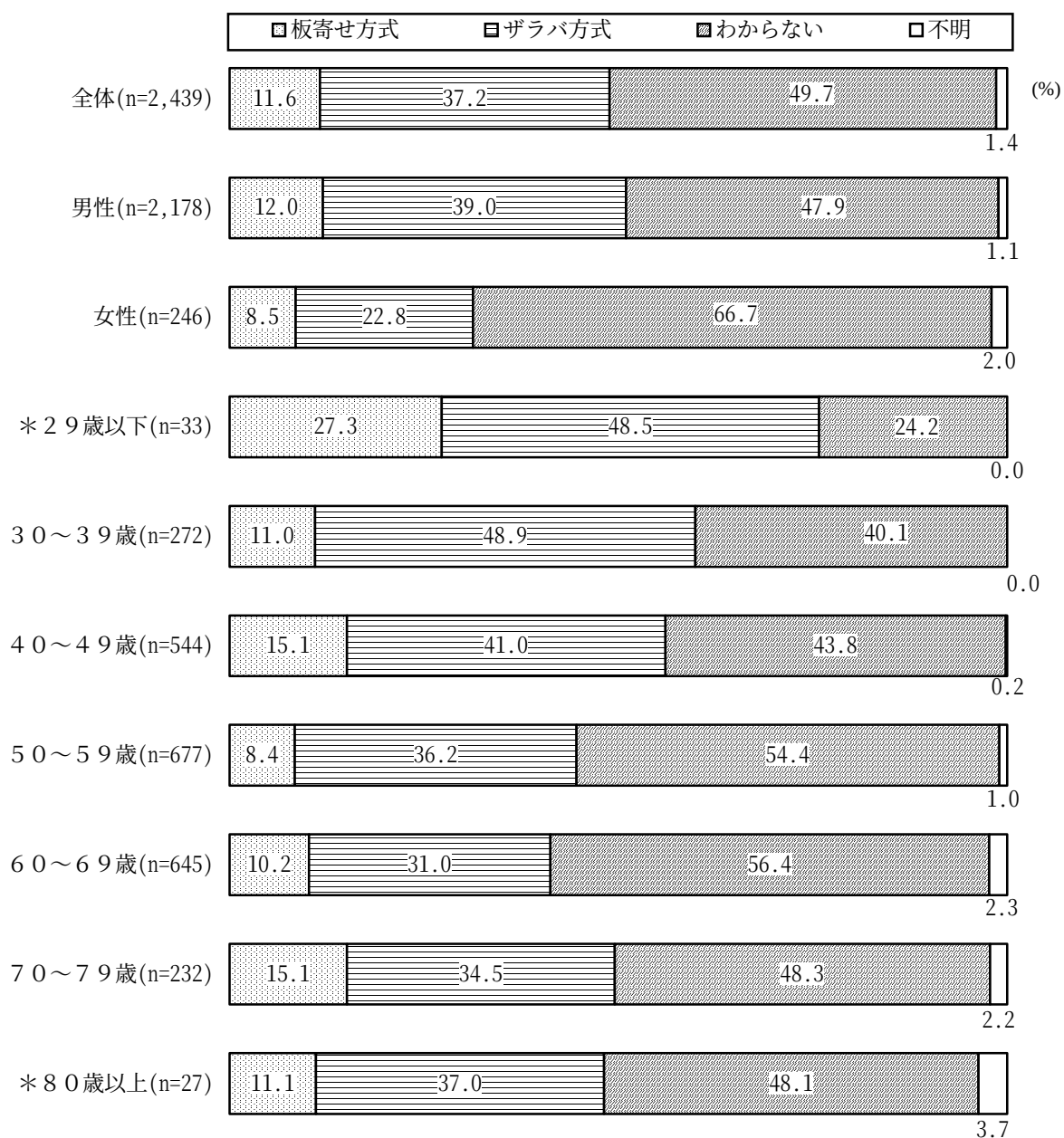
II -18.板寄せ方式とザラバ方式

板寄せ方式とザラバ方式のどちらが良いかについては、「板寄せ方式」が 11.6%、「ザラバ方式」が 37.2%となっているが、「わからない」が 49.7%と最も多くなっている。

性別でみると、「女性」で「わからない」が 66.7%となっており、「男性」の 47.9%と比較して多くなっている。

年齢別でみると、いずれも「ザラバ方式」を支持する割合が多くなっているが、年齢層が低くなるほど「ザラバ方式」を支持する傾向が高くなっている。(図表 43)

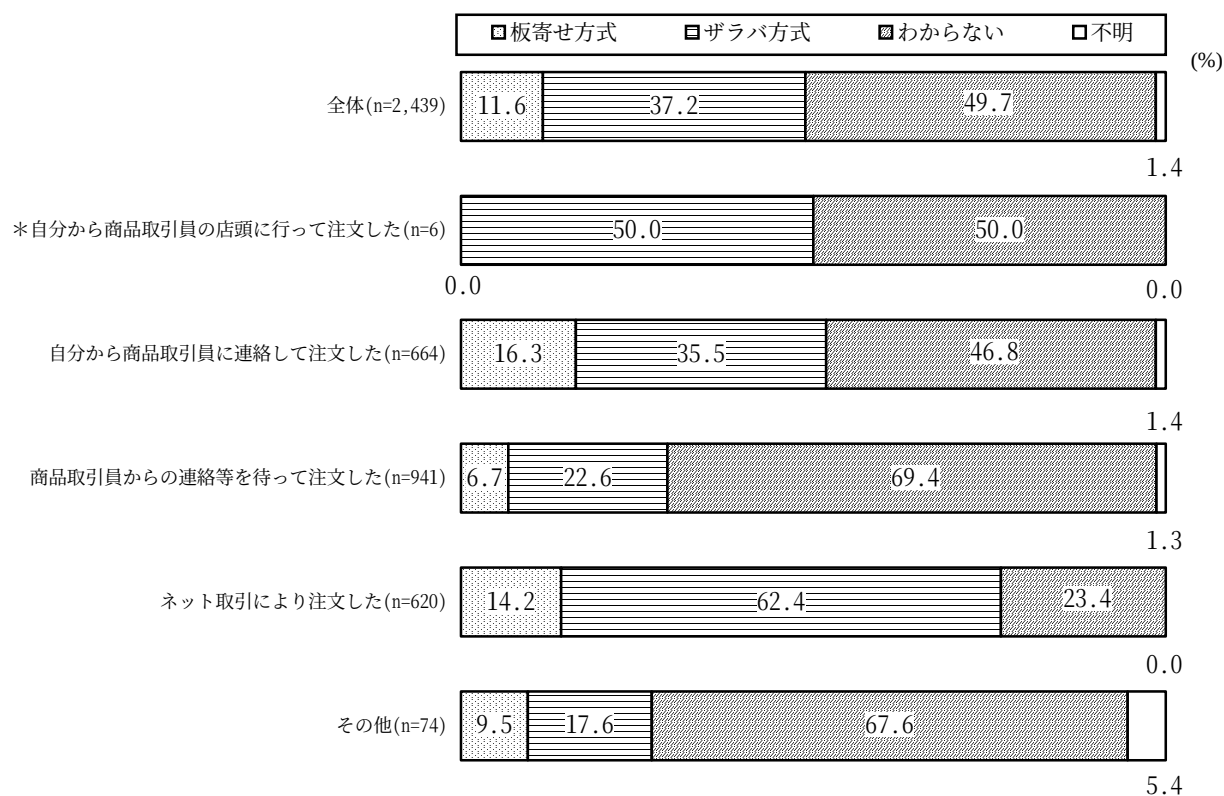
図表 43：板寄せ方式とザラバ方式（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

これまでの注文方法別でみると、「商品取引員からの連絡等を待って注文した」で「わからない」が 69.4%と多くなっている。「自分から取引員に連絡して注文した」では、「板寄せ方式」が 16.3%、「ザラバ方式」が 35.5%となっている。「ネット取引により注文した」では「ザラバ方式」が 62.4%と最も多く、「わからない」は 23.4%と少なくなっている。(図表 44)

図表 44：板寄せ方式とザラバ方式（これまでの注文方法別）



注) 図表中*印のついた「自分から商品取引員の店頭に行って注文した」はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

II-19.日本商品先物取引協会について

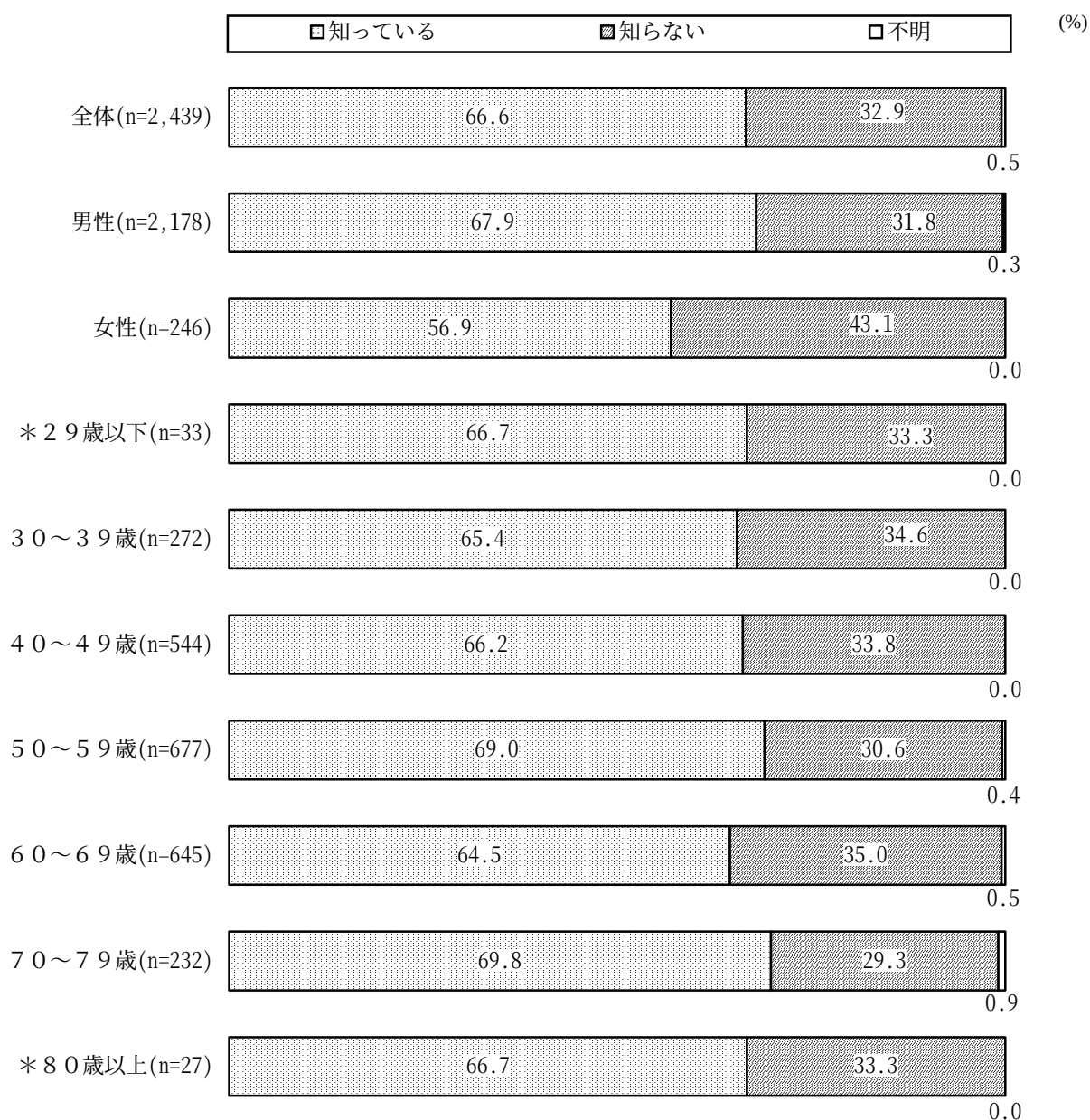
(1)日本商品先物取引協会の認知度

日本商品先物取引協会の認知度については、「知っている」が 66.6%、「知らない」が 32.9% となっており、2/3 が認知している。

性別でみると、「女性」が 56.9%となっており、「男性」の 67.9%と比較してやや低くなっている。

年齢別でみても、いずれも 6 割以上が認知しており、大きな違いはみられない。(図表 45)

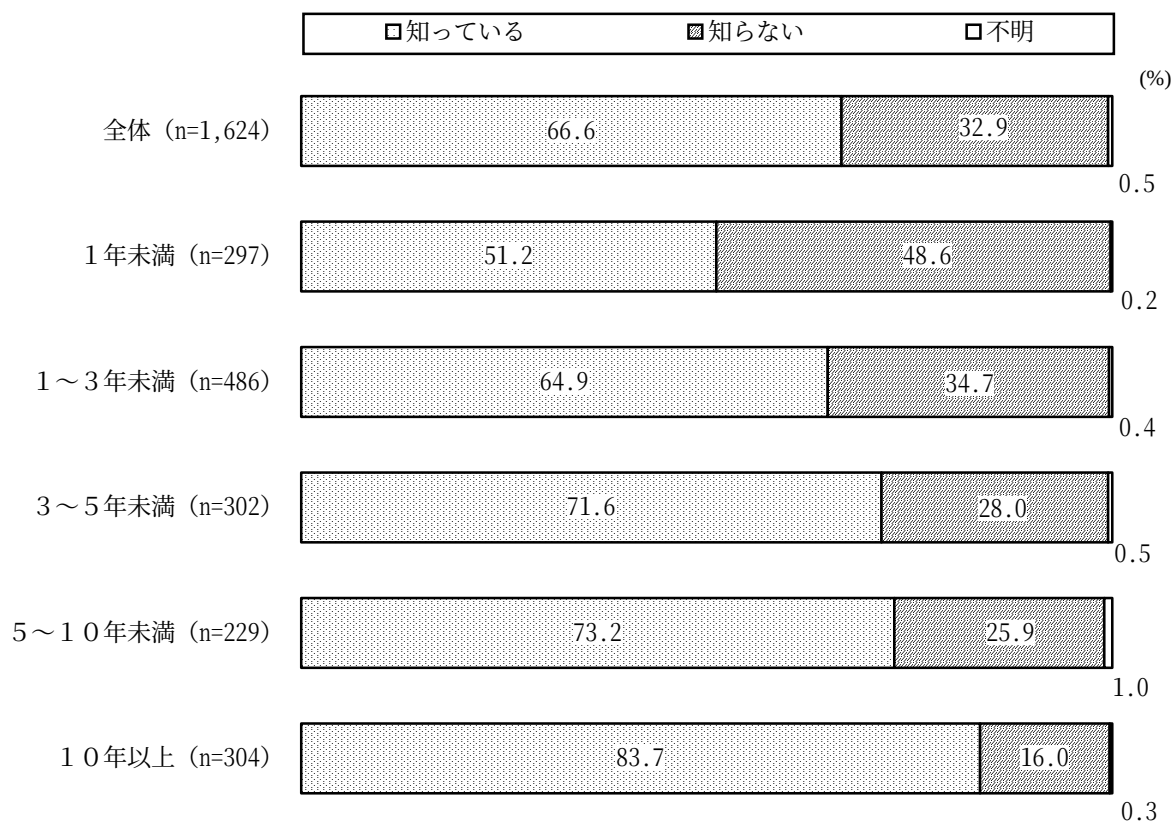
図表 45：日本商品先物取引協会について（全体、性別、年齢別）



注) 図表中*印のついた年齢層 (29 歳以下、80 歳以上) はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

取引の経験年数（累積）別でみると、「1 年未満」で「知っている」が 51.2%となっているが、「10 年以上」では「知っている」が 83.7%となっており、経験年数が長くなるほど認知度は高くなる傾向がみられる。（図表 46）

図表 46：日本商品先物取引協会について（取引の経験年数（累積）別）

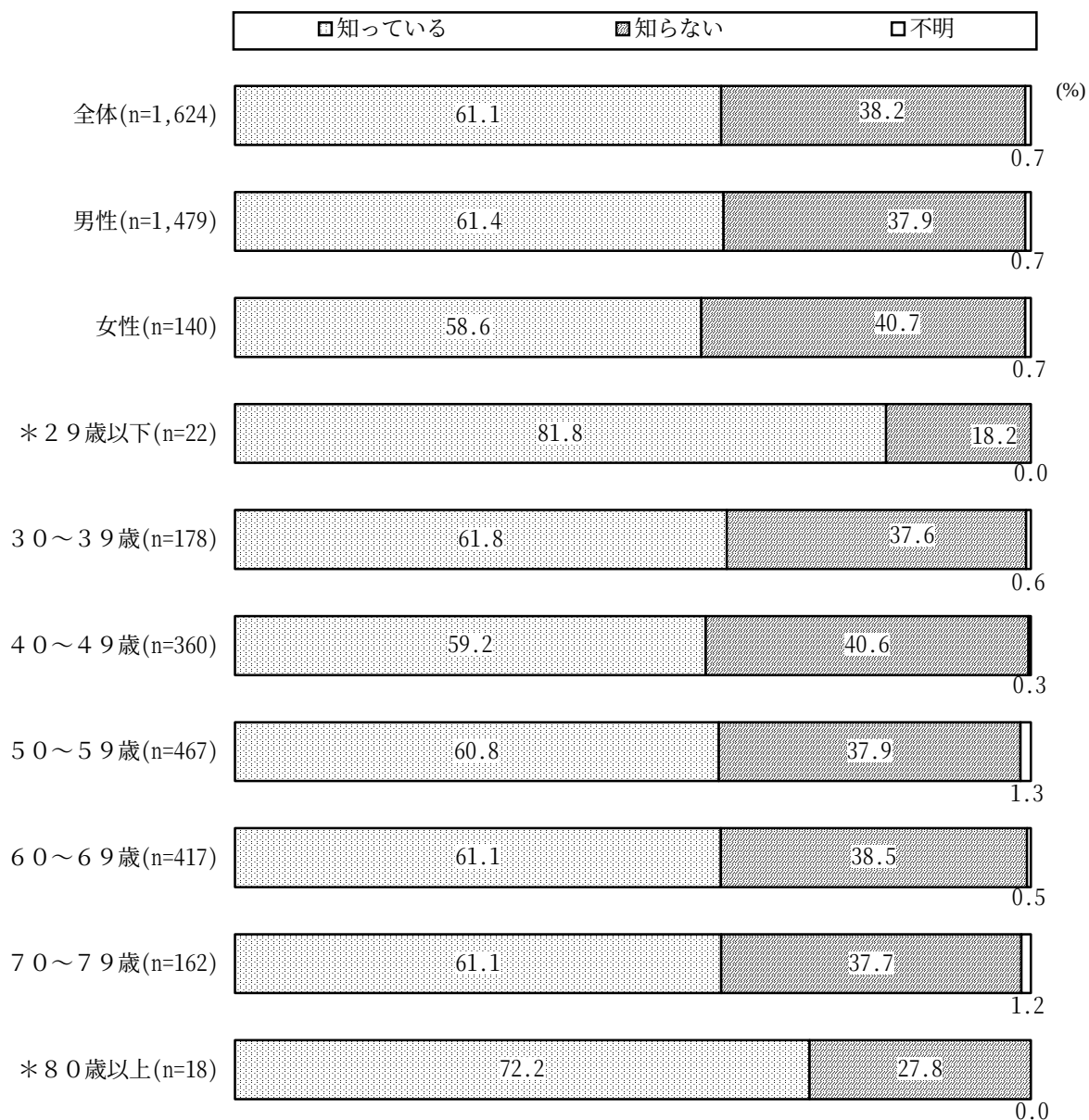


(2)相談・苦情の仲介業務について

日本商品先物取引協会が相談・苦情の仲介業務を行っていることについては、「知っている」が61.1%、「知らない」が38.2%となっている。

性別、年齢別でも、サンプル数の少ない「29歳以下」と「80歳以上」を除き、大きな違いはみられない。(図表47)

図表 47：日本商品先物取引協会の相談・苦情の仲介業務について（全体、性別、年齢別）

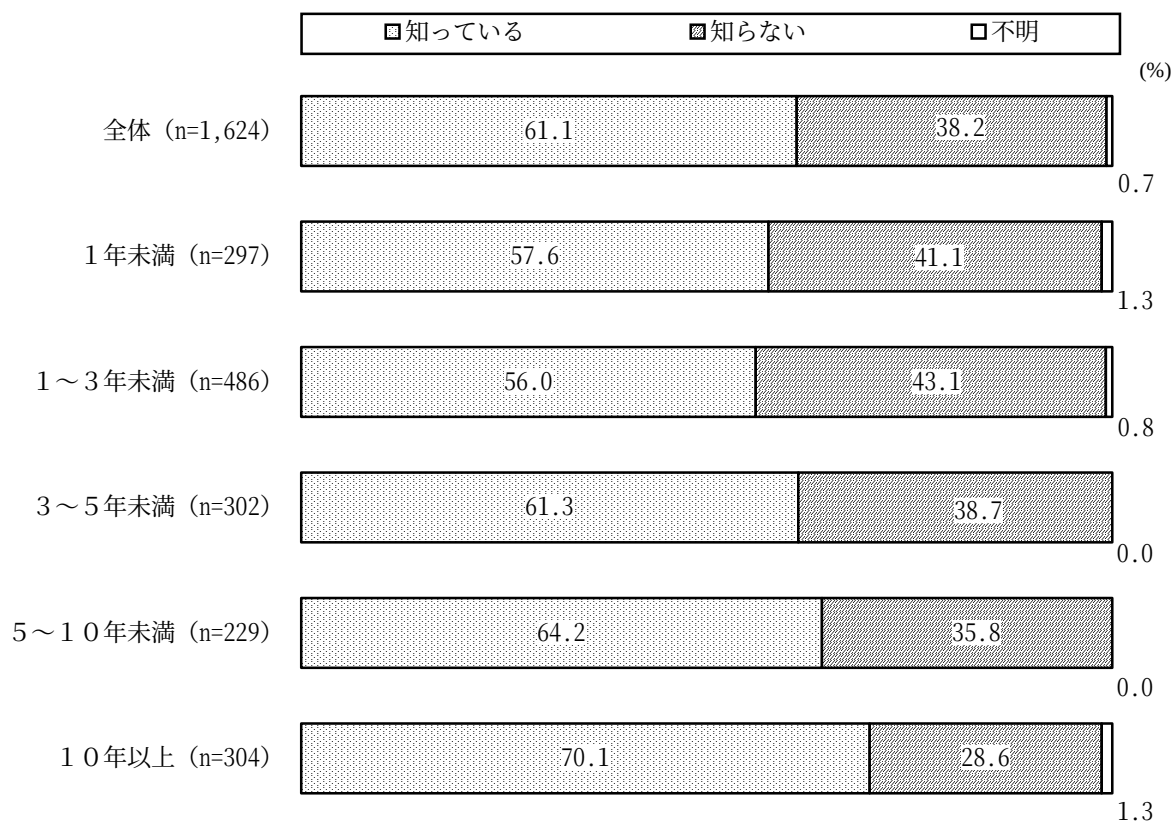


注) 図表中*印のついた年齢層(29歳以下、80歳以上)はサンプル数が少ないため、参考値と考えるべきである。

注)日本商品先物取引協会を「知っている」と回答した委託者 1,624 人が回答。

取引の経験期間（累積）別でみると、「1 年未満」で「知っている」が 57.6%となっているが、「10 年以上」では「知っている」が 70.1%となっており、経験期間が長くなるほど認知度は高くなる傾向がみられる。（図表 48）

図表 48：日本商品先物取引協会の相談・苦情の仲介業務について（取引経験期間（累積）別）



III.商品取引員調査の結果

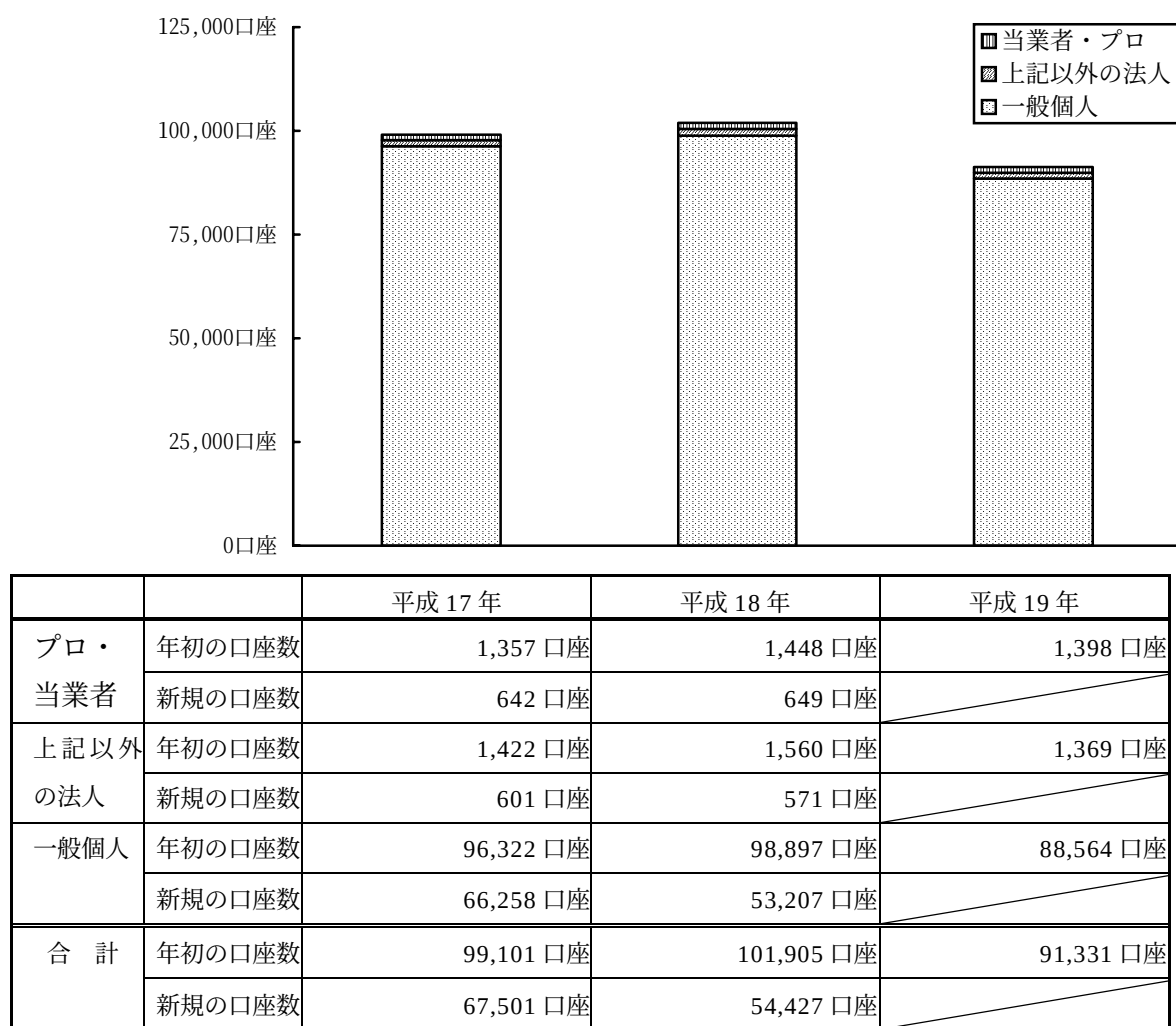
III-1.取引口座数

平成 17 年から平成 19 年における商品取引員の年初及び新規の口座数について、「プロ・当業者」、「プロ・当業者以外の法人」、「一般個人」の別に質問している。なお、本調査の時期が年初であったため、平成 19 年の新規口座数は調査対象外としている。

取引口座数は、平成 17 年初には 99,101 口座あり、平成 18 年初には 101,905 口座と増加したが、平成 19 年初は 91,331 口座と減少している。

新規口座数は、平成 17 年には 67,501 口座あり、平成 18 年は 54,427 口座と新規口座の数は減少している。(図表 49)

図表 49：取引口座数



注) 「プロ」：「商品取引所法施行規則第 107 条第 1 項第 1 号～4 号として規定される者」

「当業者」：「商品取引所法施行規則第 107 条第 1 項第 5 号として規定される者」

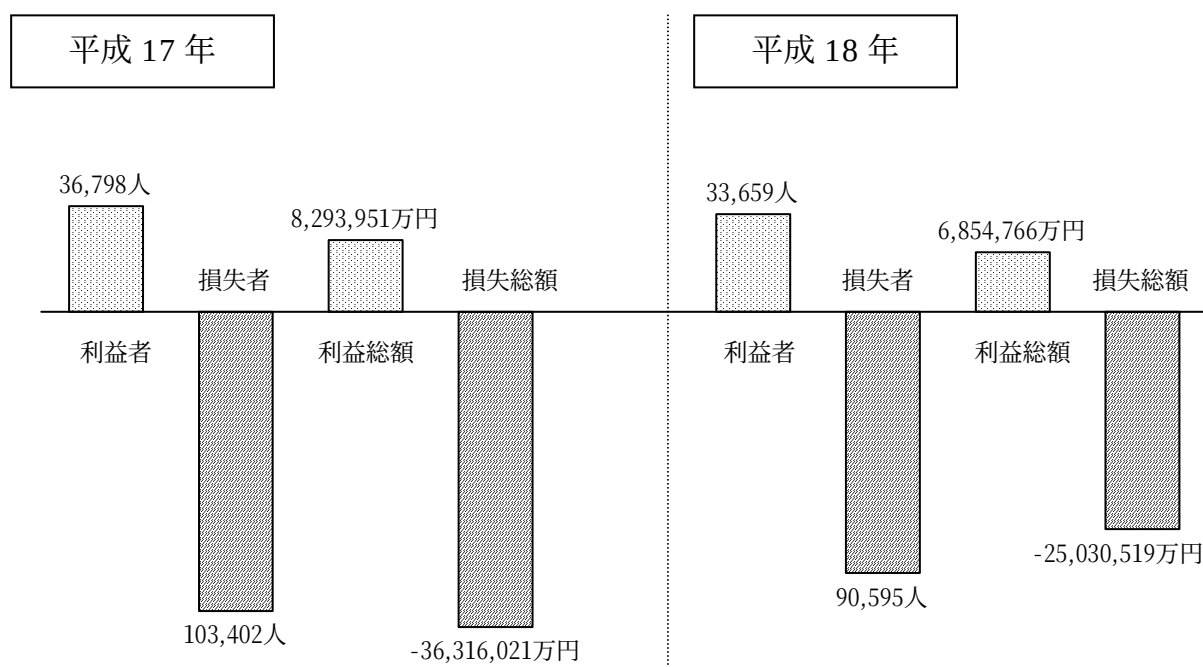
III-2.一般個人の損益状況

一般個人の損益状況については、平成 17 年から平成 18 年にかけて、委託者数の減少に伴い、利益者、損失者がともに減少しており、また、同様に売買枚数及び取引金額の減少に伴い、利益総額、損失総額がともに減少している。ただ、利益者と損失者の比率は、平成 17 年と平成 18 年とでは大きな違いはなく、利益者約 3 割に対し損失者は約 7 割という結果になっている。

平成 17 年の 1 年間に於いて、利益者は 36,798 人、損失者は 103,402 人となっており、一人当たり平均利益額は 225 万円、一人当たり平均損失額は 351 万円となっている。

平成 18 年の 1 年間に於いて、利益者が 33,659 人、損失者が 90,595 人となっており、一人当たり平均利益額は 204 万円、一人当たり平均損失額は 276 万円となっている。(図表 50)

図表 50：一般個人の損益状況



	平成 17 年	平成 18 年
利益者数	36,798 人 (26%)	33,659 人 (27%)
利益合計額	829 億円	685 億円
一人当たり利益額	225 万円	204 万円
損失者数	103,402 人 (74%)	90,595 人 (73%)
損失合計額	3,632 億円	2,503 億円
一人当たり損失額	351 万円	276 万円
委託者数合計	140,200 人 (100%)	124,254 人 (100%)

注) 損益の計算方法は「売買損益金+手数料+手数料に係る消費税」。

III-3.登録外務員数

登録外務員数は、平成 17 年初には 12,635 名であったのが、平成 18 年初には 11,312 名、平成 19 年初には 10,024 名と減少している。(図表 51)

図表 51：登録外務員数

